

×

松元末吉著

見えざる敵
形而上戰

文進堂發行

392
2



13760

序

近代戰の特色は、交戦國相互の物心萬般の總力戰にあるのであつて、武力戰の強弱のみでは、戰の勝敗は決せられない。殊に秘密戰の優劣如何が戰の歸趨に重要な因素をなして居る事は、第一次歐洲大戰に於ける獨逸の敗因に徴しても、明かである。秘密戰の攻撃は、一部専門家の擔當するところであるが、之れが守備は、全國民の責に於て果さなければならぬ。今や、此の目に見えざる秘密戰の對日攻撃が、日に増し、巧妙執拗に迫りつゝある。銃後國民は、一刻も早く、之に對應する心の備へを作り、不敗の態勢を、急がなければならぬ。

この意味に於て、本書の出現を喜ぶと共に、著者の勞を多とするものである。

昭和十七年十二月

自序

大御稜威のもと、皇軍の百戦連勝の賜に因り未曾有の戦果を挙げ中外に威武を宣揚しました。

かくて、武力不敗は最早や不動のものとなりました。然りとは申せ敵が唯一の武器と恃む「目にみえざる戦」には未だ勝つては居りません、而も敵は「隙だにあらば」其得手の魔術を浴びせんと虎視眈々たるものがあります。

戦捷の現實に酔はず、驕らず、國民の一人一人が日本精神の鎧を装ひ、思想維新の世紀へ無言の銃を採らねばならないのです。

拙編は自分の散讀手記より抽出したるものを補正したる集約記です。

表現の構想は棒書を排し問答態とし専ら「形而上戦」なるものの概念の簡約に努めました、従て用語の適否、配列の順、不順は敢へて問題とせざるのみならず設篇の分類等の當否に關しても深い検討を加へませんでした。

かくして脱刊したものでありますので内容の杜撰なるはもとより隨所に隔靴搔痒の感あるを免れません、御叱正を乞ふ次第であります。

尙拙編の集録に當つて豫て畏敬措く能はざる奥村情報局次長閣下より格別御懇情を辱ふ致したることを光榮とすると共に、拙編に對し序文を賜はつた伊場滋賀縣宮房長（前大阪府外事課長）殿に對し深甚の謝意を表します。

昭和十七年十二月

於高尾町官舎

著 者 識

目次

思想篇

形而上戰とは何ぞや……………一

思想戰を如何に解するや……………二

大東亞戰爭の思想的意義……………三

▲思想維新戰爭に約束されるものは？

▲歴史的必然の戰とは何か

▲新しい世界觀とは何か

▲英米の戰爭觀と日本の戰爭觀とは何處が違ふか

思想戰に對し先づ知るべきことは何か……………二

思想謀略とは何ぞや……………三

▲思想謀略の狙ひ

▲神經謀略とはどんなものか

▲思想攪亂に敵は如何なる間隙を狙ふか

思想謀略の實例……………一八

思想謀略に對し注意すべきこと……………二二

前歐洲戰爭時ドイツが思想戰に敗北したる事由……………二四

▲聯合國側の斯かる意圖は戰爭終了と同時に中絶したか

▲思想反亂の急先鋒となつたのは誰だつたか

英米の國際主義と今次歐洲戰爭とは不可分のものであつたか……………二九

英米の國際主義と滿洲事變との關係……………三〇

▲英米思想のアジア浸透の經緯並露骨なる對日政策

舊秩序思想とは何か……………三一

▲英米思想によつてどういふ人生觀がつくられたか

▲舊秩序思想は未だ殘存するか

▲我々自身の中に宿る舊思想とはどんなものか

▲それでも日本は明治維新以來歐米文化を吸收して偉大になつたのとは違ふか

▲日本の文化の在り方に對し考古學者は何と教へるか
大東亞戰爭に於ける思想戰の目標は舊思想の全的否定か……………四〇

▲時局下昏迷の思想とは？

▲大東亞戰爭の日本の敵は何處か

ドイツの全體主義と日本精神との關係……………四六

▲日本はドイツを模倣するといふ考へ方は間違ひか

道と教への關係……………五〇

物心一如とは？……………五一

死生一如の道とは？……………五四

死生一如の道を外國人はどう見るか……………五六

▲死生一如を繞つて日本人から質問した場合英米人はなんと答へるであらうか

エダヤ民族小史と思想動向……………六〇

▲エダヤ人は如何なる性格の民族か

▲エダヤ人の守護神は何であるか

▲世界に於けるユダヤ人の分布状況

▲日本にはどの位のユダヤ人が居るか

▲ユダヤ問題が我國に始めて紹介されたのは何時頃か

▲其後の経緯はどうなつて居るか

▲ユダヤ問題が危険視される理由

▲フリーメイソンとは何か

▲今次大戦に於て英米壊崩相を教ゆるもの？

▲リンドバーク大佐夫人の叫びはルーズヴェルトに響いたか

▲ルーズヴェルトはユダヤ人か

▲ユダヤ主義と歐洲樞軸國家との關係

ユダヤ人は戦争にどんな手を打つか……………七五

中國共産黨は如何に暗躍するか……………七七

重慶は思想的にどんな變化を來しつつあるか……………八〇

▲支那民衆へ戦争理念が浸透する日は近い

▲全面和平促進の鍵として残されて居るものは何か

▲英米の深刻なる敗退にも拘らず蔣政權の抗戰事由如何

南方占領地の思想動向……………	八五
-----------------	----

▲斯様多年に亘つて培つた彼等舊思想の匡正は可能か

▲占領地に於ける原住民は皇化に感激なし居るや

▲思想善導の考察はなされつゝあるか

▲民族思想善導上の要諦

英國は滅亡するか……………	九一
---------------	----

フランスは何故敗れたか……………	一〇一
------------------	-----

これからの世界はどうなるか……………	一〇九
--------------------	-----

防 諜 篇

防諜とは何ぞや……………	一一〇
--------------	-----

▲防諜の範圍

▲防諜の種類

防諜の重要性……………	一二三
-------------	-----

國民防諜の心構へ……………	一二四
---------------	-----

秘密戦とは何ぞや……………一六

▲秘密戦の種類

諜報には如何なる手段を用ひるか……………一八

▲開戦に至れば敵國人は退去するから諜報は杜絶するのではないか

外國スパイ網の真相……………二〇

宣傳戰術の種類並宣傳方法……………二二

▲デマ流言に因る宣傳の種類々相

最近に於ける英國の對日諜報宣傳謀略の概況……………二九

第五列とは何ぞや……………三三

▲第五列の諜報活動

▲ストラットフォース・プラン

第六列とは如何なるものか……………四二

敵間諜の日本人觀……………四二

▲日本國民が防諜に對し比較的無關心だと評さるる理由

國際電波戰の實狀如何……………一四五

近代秘密戰進國は何處か……………一五一

防諜法規にはどんなものがあるか……………一五五

▲言密又は秘密を如何にした場合が違反となるか

言 論 篇

言論法規には如何なる種類のものがあるか……………一五八

▲言論法規の擴充強化されたる理由

如何なる内容の言論が制限を受けるか……………一六〇

如何なる行爲がいけないのか……………一六一

目的の有無に依り犯罪の成否に關係ある場合があるか……………一六三

戰時、平時に依つて犯罪の成否に關係ある場合があるか……………一六四

言論法規に違反すれば如何なる刑罰が科せられるか……………一六五

思想篇

問、形而上戰とは何ぞや。

答、形而上戰とは所謂「秘密戰」の代名詞で、武力以外の戰術たる宣傳、諜報、謀略等凡そ影なき戰ひの總稱であつて戰爭目的達成を容易ならしめる爲に行はれるのである。

形而上戰の目標となるものは相手國の軍事、外交、政治、思想、文化等凡そ國力判定の基礎となる國家資源の全分野に亘つて居るのである。

又其時期如何といふに戰爭前後を通じて行はれるのである、例へば前歐洲戰爭時イギリスの宣傳謀略戰が活潑に働き出したのは戰爭が終つた年のつまり戰爭の最後の半年だけだつたと傳へられている。

形而上戰は何も近代戰の特產物ではない我國に於ては戰國時代の頃「猿廻し」と

か「山伏」とか「偶然誘波」とか「郷談誘波」とか又面白いのは武田信玄などが夜戦に使つた「間者の撰分法」等ありたるの外古來名將は戦争に臨んで士氣を鼓舞し名分を正す爲に同時に敵の戦意を沮喪攪亂するに努力したことは歴史の證明するところである、乍併形而上戦が意識的に大規模に近代戦の形態として其威力を濃度に發揮するに至つたのは前歐洲戦争以來のことであると言はれて居る。

問、思想戦を如何に解するか。

答、思想戦と言へば思想の精疏の問題とか或は又宣傳謀略とかの如き技術的工作手段のやうに直覺され易いのである、而かも斯様な見方が從來其儘思想戦として直譯されてゐた向きもあるやうだがそれは間違ひであるのではないか。

思想戦の本質は物に對する見方なり判斷を如何にすべきか言ひ換へると人生觀、社會觀、國家觀に對し如何なる見方なり考へ方を爲すべきか、之が思想戦を決定する基準となるのである。

従つて單に思想と思想との對立抗爭が思想戦ではなく別言すれば眞理が交戦國家

間の武器となるのであつてそして之によつて勝敗が決するのである。

参考

思想戦とは直接の敵方を打つのでなく絶対不敗の眞理を強調して倦まず相手をして自然に其非を悟りこちらに歸服せしむることが思想戦の本道である。

思想戦は究極に於て眞理戦であり信念の戦ひであるから相手の思想と交錯して直接に戦ひの効果を狙ふといふことは必ずしも本質ではない、思想戦にはかうした絶體的性格が存してゐるのである。

しかしそれかといつて思想戦に現實的、對立的要素が全く存しないのではない、思想戦は空中に向つて吐く空念佛ではなく現實の相手を現實に屈服することを目的としてゐるのであるから同じく眞理の強調であつても相手に對應して其虚を衝く説き方がなされるのでなければならぬ。況んや思想戦は永遠不變の眞理の一定の時代に於ける現れであることは言ふ迄もない……（昭和十七年九月號文藝春秋大串兎代夫氏）

問、大東亞戦争の思想的意義。

答、大東亞戦争は八紘爲宇の精神を基礎とせる日本の道義觀の樹立を目標とするもの

でそれは文字通り皇道思想の世界的岩戸開きである。

大東亞戦争が日本思想と英米思想と日本の世界観と英米の世界観との戦ひであると言はれて居ることは單に思想と思想との對立抗爭を意味するものでなく究極するに日本の普編絶體の眞理が勝つか英米の偏狹相對の眞理が勝つかに繋がつて居るのであつて再言すれば日本の皇道が勝つか英米の邪道が勝つかにある、

此意味より大東亞戦争は自主的には純乎たる日本思想への還元であり客觀的には英米思想を超克せんとするものである。

従てされば勿論單なる地圖の塗換ではなく實に世界思想の塗換であるのである、といふのは從來世界秩序を支配して居た誤れる英米思想は今日に於いては最早有害無益な舊秩序思想以外の何者でもなくなつたからである、茲に於て大東亞戦争は最も高い文明原理に胚胎する日本思想と最も野卑なる擬裝文明の原理たる英米思想との戦ひであるといふことが出来る、然れば大東亞戦争は單に英米を屈伏さすれば事足りるといふのではなく英米的世界思想を打破して日本の道義思想を八紘に光被せん

とする世界史的意義を有する聖戦であり思想維新戦争である。

それは又手だてを弄しての戦ひでなく正面から國力を翳して堂堂と戦ふのである、大東亞戦争が武力で終るのでなく高次の思想戦であり即ち英米の武力は亡びても其舊秩序思想の殘存する以上之と戦はねばならぬといふことは大東亞戦争が一面武力戦であると同時に他面一大建設戦であるといふ結論から當然である。

建設戦！ それは至難なる大事業である巷間「百年戦争」と云うも「戦はこれからだ」と言はれることも實に茲にあるのであつて大東亞戦争の一面のみを知つて他面を忘れてはならないのである。

之を要するに大東亞戦争は單な戦争ではなく戦争の裏に建設があり民族の永遠の救済がある之が爲に舊秩序思想の否定が約束されるのである。

従つて假に軍事、政治、經濟的に英米を立つこと能はざらしめる條約を結んだところでそれだけでは足りないのである何故なれば英米的な精神文化を悉く葬り去らぬ以上復た頭を擡げて來るであらうことは想像に難くないからである、

されば今假に英米の不徹底な屈服妥協に乗ずるが如きことあるとせんかそれは正しく思想的敗戦となり忽ちにして折角の戦果も喪失するに至るのである、我等は此處に於て大東亞戦争の思想的意義を再認識せねばならないのである。

此點に就て戦争には勝つことを知つて居ても何時迄戦ふかについては必ずしも徹底して居るとは言へないのではなからうか、我等は此處に於ても戦争の長期化を確認すると共に更に思想戦士としての覺悟を新にせねばならないのである。

参考

前歐洲大戰をよく世界戦争と言はれるが私はそうは思はぬ前大戰は世界戦ではない成程戰場は歐洲からアジア、アメリカと殆んど地球の全面に亘つたが併し思想的に見ると世界戦ではない世界の歴史を變革する戦争でもない白人間の勢力争ひであるドイツの勃興に對するアングロサクソンの反撃の戦争であつたのである、しかし今次の歐洲戦争や大東亞戦争こそは世界戦といふに適しきものである何故ならば世界歴史の全面に關聯し世界歴史の方向を變へる戦争であるからに外ならないからである……(昭和十七年八月號公論奥村喜和男氏)

註 大東亞戦争が滿洲事變乃至支那事變の延長戦なる因縁性よりすれば大東亞戦争は日本の理想

たる皇道と英米の擬裝民主々義國際主義との衝突であるとは言れて居る

甲、思想維新戰爭に約束されるものは？

乙、大東亞戰爭が思想戰なりと言はれることは單に敵の思想を撃てばよいのだといふことだけでは足りないものであつて其處には必然皇道思想觀が確立されねばならないことは既述の通りであつてこれが爲には先づ

(イ) 日本人たるわれわれが一つの新しい思想の世紀を打建てるのだといふ確信のもとに思想戰の自主的目標としての自國文化に對し不拔の自信と自覺を持つことにある、そして眞に御稜威を載く日本精神に三千年來脈々として流れる血をはつきりと自覺すべきである茲に於て又政治力の指向の重要なことは言ふ迄もない。

(ロ) 普編的愛國心を顯揚することである、個人的利己觀を去つたのみでは襟度が狭く今一步出で、國家的利己觀を脱却せねばならない、蓋し國家的利己觀に酔ふての餘り他國や他民族を思ひやるといふ氣持がないならば偏狹となりそれでは道義國家に於ける眞の愛國者の態度とは言へないからである、八紘爲宇の大理想下、

搾取侵略の思想排除のもとに大東亞諸民族解放を目指す世界維新戦争に於て我等はかかる偏狹獨善の愛國者であつてはならないのである、要するに眞の愛國者は祖國たることを忘れざるとともに「まつろへる」ものにとつてを許す祈念者でなければならぬ此考へ方が必要であると思ふ。

(ハ) 皮相な對立感は考へ物である、一切の西洋思想から避けんとし専ら日本的なものとか大東亞的なものとかを築き上げたいといふ熱心の餘りこれのみに凝り過ぎると谿達明朗を缺いでかへつて八紘爲宇の精神に則はぬことになる、蓋し眞に日本的なるものの妥當性はわれわれ日本人のみならず世界の萬人がこれを仰いで日本的なものとして得心すべき理由のあるものでなければならぬからである。

【参考】

ヒットラー總統は「我が闘争」の中で「敵國の世界觀を打破する世界觀を持たざる限り如何なる武力を以てしても敵國を破ることは出来ない」と言はれて居ることは流石と思ふ。

甲、歴史的必然の戦とは何か。

乙、大東亞戦争は偶然に起つたのではなく歴史的必然の戦である、歴史の發展から

乙、大東亞戦争は偶然に起つたのではなく、歴史的必然の戰である。

どうしてもかくなる法則でなくなつたのである、それは我々が生れる前に歴史のかかる環境が生じて居りそこに我々が生れたのである、而して歴史の環境は我等の祖先がつくつたものである、かくて大東亞戦争は我等祖先の遺業であつたのでつて茲に於てか原因のない偶然的運命の戦争と異なる、而かも此必然は同時に世界をひとせる理念構想より出づる所謂世界史改編肇造を運命づけられた歴史的必然的運命の戦ひであることを意味する。

【参考】

大東亞戦争を目して明治以後に於ける歴史的環境によつて起きた現象だなど、解してはならぬ大東亞戦争が聖戦だと言はれるところにはもつともつと悠遠な歴史的意義が伏在せねばならぬそれは何か、わが肇國の理想戦であり天祖降臨遊ばされた遠い昔からの日本國家の已むに已まれぬ生々發展の理想戦なのであつて實に天地開闢以來の日本の一大理想戦なのである、恐れ多いことながらこれを歴史の事實から申上れば神代の理想に立ち還るが爲の戦争だと思ふのであるそれは神代の時代に月讀命ツキヨミノミコトさまといふ神様がおいでになり海原を支配された日本書記に所謂「海原」とは今日の學說によれば東京から半徑五千四百料でそれには南洋が包括されるそれが太古の神代時代に月讀命さまが支配されて居られたと申すこれは必ずしも一片の空想ではなく今日の考

古學言語學土俗學等の研究からいつもその事實であることが證明されて居る……………然るに常識の世界からのみ戦争を眺めて「何故然るか」に就ては何人も答へる人がないと（小林橘川氏講演要旨）

甲、新しい世界観とは何か。

乙、近世の自由主義的個人主義文明を否定しこれを超克しより高次の文明原理が生れることであつて即ち從來の政治經濟文化の指導精神が既に其死命を果して次に生れる新らしい指導精神たる國家主義であり、全體主義であり、公益優先主義のことである……………

英佛國民の期待を裏切つてドイツの世界観が今後の世界を支配するのでなくドイツの世界観が英佛の世界観に勝つたのである、即ち全體主義が個人主義に勝つたのである（奥村喜和男氏著國民に叫ぶ一〇三頁——一二四頁）

甲、英米の戦争観と日本の戦争観とは何處が違ふか。

乙、日本の戦ひは天業恢弘の爲「まつろはざる」ものを「まつろはす」戦争である即ち理想を掲げた戦争であり大義名分の戦争である、古來に於ける日本の戦争は

即ち理想を掲げた戦争であり大義名分の戦争である、古來に於ける日本の戦争は

皆そうである。

之に反し英米の戦争は西洋兵學の科學的體系を樹てた「クラウゼヴィッツ」の所謂「戦争は政策の變形的近長」であるに立脚し恰かも資本を拵へて株を張るやうに戦争を商賣視した沒理想沒義道の戦争である、換言せば政策を強行する爲武力を準備して威嚇するそして時こそ到れると外交交渉に移る行詰るとよしッ戦争だとなる、之が英米の戦争流儀だ、今日では盟邦ドイツの戦争觀は東洋流に觀直し即ちドイツ民族の生存確保の戦争と信念して居ると言はれて居る。

又日本の戦争は王道より出づる「尙文卑武」なる支那本來の戦争觀とも違ふ、従て「尙文卑武」の謬見に捉はれて天業恢弘の鋒先を鈍らすことは絶體に許されることではないと言はれてゐる所以である。

【注】 山鹿素行は「王者も力を用ふべき處には力を用ひ權謀を假るべき處には權謀を假る、王は必ず力を用ひず權謀を假らずと云ふは是れ偏説なり」と云つてゐる。

問、思想戦に對し先づ知るべきことは何か。

答、▲前歐洲戦争に於てドイツが敗北したのは世間周知の如く武力の敗北ではなく思想戦に於ける敗北であつた、思想戦の敗北といふも宣傳戦といふが如き技術的敗北ではなく實にドイツ祖國の文化と傳統とに對する自信を失へることが致命的敗因であつたといふのは當時ドイツ國民の一部には敵國であるフランスや英米の經濟を過大視するとか、文化を禮讃するとか、外交に共感するとか、果ては自國の戦争目的に對してすら疑ひをもつものさへ出で遂に敗戦主義思想に見舞はれ慘敗を喫するに至つたことは惜しむべく且後車の戒めとすべきことである。

▲米國大統領ルーズベルトは「此戦争は米國の生存を賭しての戦争である單なる戦、闘の勝敗が賭けられてゐるのではない實に米國の生存と米國のデモクラシー原理と米國資本主義の繁榮とが全面的に賭けられてゐるのである」と宣言してゐる、彼等がさきに六百億ドルの大軍備擴張計畫を樹て對日攻勢を企圖しつゝあることもここにあり而かも此種のことは米國だけでなく英國も又然りである英國が敗戦の結果動搖しつつあることを以て英國戦争體制の崩壊と見ることは早計である、チャーチ

ルは一部國民の不信任を外にし一九四三年迄には世界の情勢を一變してみせると不退轉の決意を示してゐるのであつてみれば、我等更に覺悟を要するものがある、況んや大東亞圈内に於て未だ英米的勢力乃至英米的思想の殘存するに於て殊に然るを痛感するのである。

註 日本は武力戰大勝を確認しておいて之に逆宣傳を放つて樞軸離反を企てるか、又は謀略によつて米英的なるものをアジアに扶殖せんとするバチルスの國際主義者を監視せよとの聲あり。

問、思想謀略とは何ぞや。

答、思想謀略とは國民思想を不安動搖に導き國內攪亂を企圖する秘密戰術である。

思想謀略は平時に於ては文化工作とか宗教傳導等緩慢なるものなるが戰時になると積極的端的に國內攪亂を狙ふ急激なるものに變化するのである。

今や日本は外に大戰果を挙げ内に鐵石の決意あるとするも世界は未だ英米的な思想の魔術から解放されて居ないのみならず大東亞共榮圈内に否日本國內に之等英米的思想の迷宮者が居ないとは斷言出來ない、然れば今後英米は其の英米思想の殘滓

の糸をたぐり起して各種の宣傳謀略の秘術を試み我國民思想の惑亂經濟力の破壊等を劃するであらうことは想像に難くない、武力に勝るとも劣らない殘された敵の唯一の手段が茲にある。

甲、思想謀略の狙ひ？

乙、反戰厭戰氣運の醸生殖民地解放、軍官民離間怠業罷業の煽動等により内部崩壊を劃するのである。

(イ) 反戰厭戰氣運の醸生

平時に於ては「神は戰を好み給はず」とか「汝の敵を愛せ」よとかの布教宣傳等に依るも戰時に於ては戰爭の悲惨事を故らに針少棒大に宣傳又は反戰厭戰感を誘發する様なことを見舞狀に附言して出征遺家族に發送する場合もあり其他相手國の食糧不足を誇大に吹聴し戰爭をするから物が不足し不自由となるのだなどと宣傳することに依り反戰厭戰氣運を醸生するのである。

(ロ) 殖民地解放

民族解放を理由とし反國家的思想を宣傳して獨立運動を企圖乃至使噓する等の策動に出で内部崩壊を劃するのである、此種思想謀略は共產主義思想と關聯する場合が尠くないのである。

(ハ) 軍官民離間

政府並軍部等を誹謗する等のことにより國內の對立相剋を醸生國論不統一に導き以て國策遂行を不可能ならしめるのである、例へばガソリン不足の虛^{タコ}を衝き「それは國內のガソリンを皆戰地に持つて行き、戰地で兵隊さんが手を洗つてゐるのだ」といふやうな流言を飛ばすなどは軍民離間を狙つた思想謀略の例だ。

(ニ) 怠業罷業の煽動

共產主義自由主義等の思想を吹込んで軍需工場にストライキを誘致助長させ以て軍需生産を減退せしめんとするの類である、戰前に於て個人主義に陶醉して自由を叫ぶものや共產主義思想等の擡頭に依り勞資對立を助長せしめたことは末だ記憶に新らしいところでこれ歐化思想の現象だつた。

尙右に關聯して注意せねばならぬことは「樞軸國並アジア諸國の離間」である。例へば防共協定あるも日本は將來必ず白人種を一掃するに違ひないといふやうなことを故らに誇張、以て樞軸國民に刺戟を與へんとするが如き之又逆な立場よりして日本國民への刺戟も考へられる、又此種の筆法に依る日滿支の離間こそ彼等の狙ひであらうことも考へられるのである。

甲、神經謀略とはどんなものか。

乙、神經謀略とは神經的效果を狙ふもので其目的は多様で、一、二の例を舉ぐれば
 ▲本年五月南支那海にソ聯船アンガラストライ號撃沈事件は新聞紙の傳ふところによれば當時駐露佐藤大使からソ聯政府へ通告された如く「同船の近くで日本汽船が同様に米潜水艦の魚雷攻撃を受けたことから推察して米潜水艦の作爲的不法攻撃によるものなることは明白で特に米國が斯る地點を選んでやつたのは日ソ間に溝をつくらんとして其神經的效果を狙つたものとされてゐる。

▲本年四月米機「ノースアメリカン」B二十五型十數機編隊の本土空襲は當局發表の如く神經的效果を狙つたものと判斷された米國は此空襲を特に誇大に宣傳する

ことに依り打ちつづく敗戦に沸騰する自國輿論を鎮靜し且聯合國及第三國の對米信賴を回復し特に重慶濠洲印度等の人氣をとらんとしたのであらうが其苦惱焦躁は察するに餘りあるものと言はなければならない。

甲、思想攪亂に敵は如何なる間隙を狙ふか。

乙、拜外思想とか恐英米思想なる自己卑少感とそれに秘密戰に馴れない國民の愚かさ等を好餌としてつけ込むのである。

イギリスの宣傳専門家ロジャソンが「此次の戦争ではどんな宣傳が行はれるかの著書の中に「日本に對しては民主主義の爲とか何とか言つて攻めたてても挺コナでも動かない何故ならば日本は天皇陛下を中心とした國民が盡忠報國に燃へてゐる日本の國體に對して疑念を抱かせる宣傳謀略は見込がない、せいぜい政府當局に對する國民の反感を高まらせるぐらいが關の山であらう………だがそんな日本だからと言つて長期持久戰になれば必ず乗ずべき隙が出来るから突くべき一點は其隙であらう」といつてゐるが此「隙」とは何であらう曰く拜外思想であ

り恐英米思想であり秘密戦に馴れない國民の愚かさである、秘密戦に馴れない一つの最近の例だが田中絹代がスパイの嫌疑で引張られたといふ噂が東京市中に擴大したそうだが此様な國民の愚かさを敵はつねに狙つてゐるのである。

別けて經濟問題に關する不平不満はもとより買溜の煽動暗取引の誘引等そうした間隙が敵のつけ込む溫床となるのである、況んや長期戦になれば日本人には必ず隙が出来るゝと狙つて居ることに於てをやである、此處に於て考へねばならぬことは「外國は偉い國」といふ感じや「外國人崇拜」とかの念を斷然捨てることであるといふのは未だに外國依存乃至外國崇拜の思想が残存し此處が弱點となつて居るからである。

このことたるや明治維新以來英米的個人主義自由主義を取入れた結果「掌中の玉を捨てゝ瓦を求めた」に基因することは言ふ迄もない。

問、思想謀略の實例。

答▲前歐洲戰爭時ドイツが帝政ロシアを崩壊させたのは武力戦よりも秘密戦の如何に

恐ろしいかを物語るものである戦争が何時終るかわからなくなつたときにドイツは外國に亡命してゐた革命運動者をロシアに入れて赤色革命を起させ帝政ロシアを内部から崩壊させてしまひ之と單獨媾和を結んだのだ之などは思想謀略に依る秘密戰の勝利の例だ。

▲最近のことだが某英字週報社長ウィルクスは日本國交好轉の傍役として米國から相當の資本を持參し渡日したのだが此週報の記事は米國から指令されるデマニュースを巧に焼直し掲載し特に日獨伊三國同盟締結前後の活動はもの凄かつたが記事は先づ米國へ送り米國の新聞紙に載せこれを上海に廻して此處で大々的に掲載させるそれを三段跳の逆輸入で上海の新聞にこんな記事が出てゐたといひ巧妙な方法でデマ放送をやり日獨の離間策を盛んにやつたがこのデマには國內の相當名士までが巻き込まれてゐたのである。

▲昭和十六年八月横濱の某軍需會社で日本人従業員と會社側間に退職金と賃銀値上問題を繞り意見對立し險惡なる状態になつたとき當時横濱英國情報機關(英國諜報

宣傳謀略綱」は同社の險惡なる雰圍氣をストライキに移行させ逐次日本全國の會社工場に波及擴大させ軍需生産を阻害すると共に國內治安の攪亂をはかり國際情勢に對處せんとする日本の行動を牽制すべく諜者たる某國人アールに軍資金を與へ多額の報酬の條件にて同人を利用し同社外人社員十數名を買収使嗾煽動させたが本件は幸ひ當局の措置宜しきに依つて怖るべき魔手を封殺するに至つた。

▲第二歐洲戰爭發生以來英國は活潑なる對外活動を開始したが例の數寄屋橋畔に文化研究所として出來た英國情報委員會は間もなく英國領事館名で日本語英語の小冊子刊行物見本を日本の各方面に撒布した其中にはレッドマンの執筆した：英佛の團結：とか又日本在住英人教授の執筆せる：銃後の英國：等あつたそうだがこれを入手した人は其小冊子の美麗と無料なるとに魅力を感じ希望購入の申込書を送つたそうだが何んぞ知らん茲に彼等の謀略が潜んでゐた、即ち彼等は購入希望者をリストに載せ之はと思ふ人に近づきこれを手懸りに執拗に食ひ下り謀略的策動を開始したのであつた。

動を開始したのであつた。

問、思想謀略に對し注意すべきこと。

答、根本に於て「日本精神を堅持昂揚」して策動の餘地なからしむることが一義でなければならぬ次に共產主義思想、自由主義思想はストライキを誘發し又は銃後を弛緩崩壊せしむるものにして此點含み特に思想的異端者とか戰時下に於ける脆弱部層を狙ふものなるが故に注意せねばならぬ。

又思想謀略の有効的常套手段たるデマ、流言によつて別けて賣惜み買溜闇取引或は又預金取付經濟恐慌の招來等を意圖せらるゝのことあれば特にデマ流言に對しては注意し萬事常に批判的態度をもつて臨まねばならない。

尙流言デマはこれを問題にしない態度と反對にどうか知らんと思ふ半信半疑に考へる心の態度が岐れ道になるのであるから結局「肚をつくる」ことが要請されて來るのである。

そしてデマ、流言の危險性は會社團體等より一般人に危險率が多いのであるから買物行列の不平や愚痴は昔の井戸端會議よりも悪いことになるのである。

半信半疑につき特に言ふべきは、自國政府の發表を疑つたり敵國の有利さを想像したりする考へを起すことによつて何時の間にか不識々々敵の謀略の手先となつて行くことである。

例へば日本は物資が不足してゐるそれに比しアメリカはこれ此通り物資が豊富だといふやうなことに迷ふとか其他政府の諸發表乃至諸施設を疑ふの餘り不安動搖に導かれる等重々戒心すべきことである、然らざらんかそれこそ敵の謀略に乗じることになるのである

茲に於て我々は「政府を絶對信ずる」ことに依つて之等謀略を叩き出すことが出来るのである。

然るに例の節米問題で見られた如き、米の生産とか消費とか輸入等の量を明にせられたしといふやうなこともあつたのであるが斯かることこそは認識不足である、何故なれば若しそれを發表して敵性國が知つたら黙つてゐない必ず輸入妨害をする過般佛印等でアメリカやイギリス系の資本で、米の買占を行つたり又印度より佛印

過般佛印等でアメリカやイギリス系の資本で、米の買占を行つたり又印度より佛印

向けの米袋のガンニーバッグの原料たる「ジュート」の輸出先を押へたり其他重慶が佛印等の波止場の荷役人夫を使嚇して日本向の米の積込を阻止したりして佛印米の買付を困難ならしめたことは豫め日本にはどれだけの金があつてどれだけ不足するといふやうなことを見込んでの好適な事例である。

本年四月の本土空襲でもそうであつた、あれを詳細に發表せば何處でどの様な被害があつたから次回は何處をどうすればよいといふやうに敵に攻撃手段を知らせることになる、だから國民に真相を知らせることは英米からもつとひどい爆撃を受けてもよいといふ覺悟がなければ發表出來ぬのだから真相を發表せぬことは政府が非常に國民を愛してゐる所以なんだ、このことに關しては前歐洲戰爭時ドイツの長射程砲がパリへ彈着したときフランスが其真相を新聞紙で發表したが爲ドイツは其れを好都合とし惡いところを修正して次回の攻撃資料に供したとのことよりして納得のできることだ、此様なことはすべてのことに關聯して考へることが出來得るのである。

「かういふ事情であるから言へない」といふことすら當局は言へない場合があるのだ。

つまり國民の知りたいことでも政府が知らさないういふ場合には必ず知らして悪い理があることを銘記して當局を信賴せねばならないのである。

ドイツソ聯では「作戰のことはヒットラーやスターリンに任しておけ」と戦争の噂など殆んどしないそうだが戦時下の國民の態度としては斯くあるべきものであらう。

問、前歐洲戦争時獨逸が思想戦に敗北したる事由。

答、敗因として擧げられてゐるものを要約すれば凡そ次の如きである。

▲思想宣傳に玩弄されたこと。

當時ドイツは武力に絶對の自信を以て居たが思想戦の手段としての宣傳センザンの如きは無力な弱者の蠢動であつて執るに足らぬと考へてゐたのだ、従て諜報に對する攻防も専ら軍事的諜報に限られてゐた爲英米佛の爲す新聞紙宣傳の如きも頓着しなかつ

無力な弱者の奮闘であつた。幸ひに、
も専ら軍事的諜報に限られてゐた爲英米佛の爲す新聞紙宣傳の如きも頓着しなかつ

た。

而かも聯合國の思想攻撃が激化した後も我關せずの態度であつた、之に反し英米佛側はどうかといふと武力戦のみによつてドイツを屈服させ得る自信を持ち得なかつたので戦争勃發前より既に經濟封鎖と共に思想攻撃が戦争遂行の一手段として計畫實施され之が戦争勃發後日を経るに従ひ激化された。

▲全獨主義が民主主義に負けたこと。

先づフランスは近代文化の先進國なることを自負し文化宣傳により英米はデモクラシーを振り翳し平和と人道を昌導した、之が帝國主義戦争の手段たることを知らざりし獨逸國民を部分的に魅惑したのだ。

勿論ゲルマン精神の發揚を自覺した一部全獨主義もあつたけれ共世界性を欠如してゐた爲不幸國民一般及中立國の支持を得ることが出来なかつた、全獨主義の弱點はどこにあつたかと言へば其原理たるヘーゲリズムの歴史哲學傳統主義の社會科學等の理論が徒らに壯大なので相互の系統がなく孤立的で一致して居なかつたことに

ある。

▲國內指導精神に欠ぐるところがあつた。

其第一は最も大事なる戦争目的が區々であつたことである、即ちドイツに於ては第一回戦時議會に於て政争中止を約する所謂「城内平和」の決議案通過と相俟つてカイザーの「今や獨逸に政黨あるを見ずただ獨逸人あるのみ」なる絶叫等により表面總親和の形を見せたが乍併何故戦争をするかに就ては必ずしも各人の意見が一致して居なかつた、今其主なるものを列舉せば(イ)ドイツは戦争を欲せさりしも露佛英に挑戦されたから戦はざるを得なかつた、つまり防衛戦争をしてゐるのだ、(ロ)獨逸はベルギーの併合を欲してゐるのだ、(ハ)獨逸の戦争の目的はフランスより鐵鑛を奪ふことにあるのだ、(ニ)獨逸の戦争目的はロシアの農奴及少數民族の解放にあるのだ、等々かくの如き戦争區々論は國論の紛叫に迄至りしに拘らず當時に於けるベートマン首相は輿論に媚び之を正しき方向に指導し得なかつたが爲所謂「城内平和」は事實上破るるに至つた、そして其處を狙つた聯合國側の反戦思想の宣傳でもあつた。

上破るるに至つた、そして其處を狙つた聯合國側の反戰思想の宣傳でもあつた。

其第二は英佛文化の追隨者を許したことである、之は畢竟するに自國文化に對する自覺がなかつたことを意味するもので勢ひ親英佛主義思想へと化して行つた、之恰かも明治以來の我國民間に西洋追隨者が多かつたと同じ傾向である、從て前述無系統なる全獨主義によりては到底之を抑止するに由なかつた。

第三に總力戰就中思想戰に對する自覺が欠始してゐたことである、聯合國側の宣傳攻撃目標は平和愛好の思想原理を前提として軍國主義の攻撃に加へカイザー軍閥等の攻撃、戰爭責任問題、慘行宣傳、ザボタージエ、ストライキ、政治經濟の革命の煽動等廣く思想、文化、政治、經濟、社會等の諸問題に亘つてゐたが目にも見えな

い思想防衛に對しては無統制であつた。
蓋し國內輿論の對峙も然ることながら諜報組織にしても軍事諜報を有するのみにして政治並經濟諜報を欠き而かも聯合國側の政治經濟諜報に對する防衛手段は全く準備されて居なかつた。

以上の如き欠陥が獨逸敗戰の最大原因となり又其處を狙つての聯合國側の宣傳、

謀略でもあつた。

甲、聯合國側の斯かる意圖は戦争終了と同時に中絶したか。

乙、戦後と雖も中絶しなかつた。

蓋し英米は民主々義を名分として其實帝國主義支配を貫徹することが當初より
の根本方針であつたからである。

この方針は彼のヴェルサイユの媾和會議やワシントン會議に明白に現れてゐる、
このヴェルサイユ體制とワシントン體制が大東亞戦争前迄英米の世界支配秩序と
なつて居たのである。

甲、思想反亂の急先鋒となつたのは誰だつたか。

乙、フランス崇拜の代表者たるドイツ共和主義者同盟もそうであつたの外、開戦當
時ロンドンに駐劄してゐたドイツ大使リヒノスキー公はイギリスの民主々義を盲
信し重大なる時期に於ける外交措置を誤つたとされてゐる。

彼れがイギリスの平和思想を禮讃し却つて自國のドイツを侵略國だとして批難

彼れがイギリスの平和思想を禮讚し却つて自國のドイツを侵略國だとして批難

論文を起草して敵國民の思想に感動を與へた事は有名な話である、尙一九一七年の軍事議會に於て中央黨の領袖エルンベルカーの提出に係はる敗戰主義的平和論が通過して居るとも言はれてゐる、かくしてドイツ國內は各階層毎に思想反亂者は次第に増加し其結果遂に政府は軍國主義呼ばはりに戰爭責任を轉嫁させられるに至つたのである。

問、英米の國際主義と今次歐洲戰爭とは不可分のものであつたか。

答、前歐洲戰爭に於けるドイツの敗因を一言につくせばドイツは聯合國側の大嘘に奔弄されて斯様に悲慘な敗戰を喫したのである。

戰時中聯合國が無遠慮に空宣傳した媾和條約に踊らされたドイツ國民はカイザーに謀反し祖國を政治的崩壊に導き以て聯合國との平和を期待したのであるが、聯合國側は獨逸國民のこの期待を裏切つてパンを求むるものに石を投げて與へた、此處にドイツ敗戰の恐るべき秘密が陰^{カク}されて居た而も戰後公約の彼のヴェルサイエ條約が又極めて不誠實のものであつたことはイタリー首相ニツチが其著「平和なきヨ」

ロッパ」に於て聯合國の不誠實を責めて居ることよりも極めて明で之等の點は盟邦ドイツ國民の永久に忘るべからざることであらうと言はれてゐる、そして今次歐洲戰爭は既に此のときから萌芽を發して居たと。

問、英米の國際主義と滿洲事變との關係。

答、英米が國際會議へ提議した狡猾な提案は例へば「各國の安全は其國の武力によつてのみ保證さるべきでなく國際的な協力に依る集團保證に委せられるべきだ。」と虫のよい原理に基いて國際聯盟が設置されロカルノ條約も四ヶ國協定も九ヶ國條締結され不戰條約も海軍々縮會議も企圖されたのであつて、これ滿洲事變に對して國際聯盟が一對四十二票を以て否決し日本の當然の主張を否認した所以の秘密であつたと言はれ、かくして英米はドイツのみならず我國に對しても支那を使噓し抗日侮日等老獪極まる思想戰を指向し世界の霸權我れにありと内心滿悅してゐたのであつて、滿洲事變に於ける日本の蹶起が如何ばかり英米を驚倒せしめたであらうことは想像に難くない、支那事變の延長たる大東亞戰爭が此滿洲事變に宿縁を持つことは

想像に難くない、支那事變の延長たる大東亞戦争が此滿洲事變に宿縁を持つことは

言ふ迄もない。

甲、英米思想のアジア浸透の經緯並露骨な對日政策。

乙、我國と最も關係ある支那は明治維新當時既に歐米思想の洗禮を受け實質的植民地化し支那本來の文化は斷絶した觀がある。

斯る歐米思想は明治以來祖國日本にも浸潤し華々しき結實を見せ恰かも英米植民地觀を呈するに至り我が誇りある傳統の歴史は忘れかけられて居た、否世界は斯る英米の思想の支配に甘んじた、我々は斯る思想に胚胎する英米のアジア政策上其最も露骨なる現れを別けて彼の九ヶ國條約並滿洲事變に對する評定にまざまざと見せられた。

即ち九ヶ國條約に於ては多數決制を恃み直接支那に關係ない國を加入せしめたるのみならず殊に甘受出来ないのはイギリスの自治領が皆一票を以てゐたといふ不合理である。

印度が一票を持つて居り、カナダ、ニュージーランド、南阿聯邦然りである。

之結局アジア防衛の日本の意思を無視して一國で六票を行使し得せしめアジアを自由に支配し以て日本の勃興を抑へんとする根柢に兆す英米の合作であつた。又滿洲事變に對しては彼のリットン報告を採擇し國際聯盟總會をして一對四十票を以て否決せんとしたことは未だ記憶に新らしきことで等しく日本の牽制であつたが終ひに其弱體は暴露さるるに至つた、かくして支那事變の延長たる大東亞戰爭は實に其英米支配の世界秩序を打破し代ふるに道義の支配する新秩序建設を目標とするものである。

參考

世界大戰後ヴェルサイユ講和會議によりドイツを無慘に屈服せしめた英米は伊太利を地中海の囚人とし更に日本を東亞の俘囚とした。

其中核を爲すものが英米の對日政治謀略たるワシントン會議でありロンドン會議であり四ヶ國協定であり九ヶ國條約であり更に支那の抗日侮日の懲罰煽動であつた、之即ち英米の思想戰に眩惑されて彼の民主主義國際主義を盲信したものであつた。(野村重臣氏著戰爭と思想八五頁)

問、舊序思想とは何か。

問、舊序思想とは何か。

思 想 篇

答、舊秩序思想とは之を一口に盡せば弱肉強食の思想である、言ひ換ゆれば「われはよかれ人はどうでもよかれ」といふ英米流の思想だ、此思想が大東亞戦争前迄世界秩序となり君臨して居たのである、そして此思想から如何なるものが生れたかと言へば政治的には御都合主義の民主々義があり、經濟的には金が人格の目安となる金權主義があり、又文化的には對立を盈む個人主義的自由主義がある、更に肉より入りて肉に終る唯物思想がある。

従つて此思想には有滅論がつきもので靈魂不滅などの理念はない、靈魂不滅を信ずればこそ敬精崇祖の念も生ずる皇道思想とは雲泥の差があるではないか。

斯る非義非道の思想は古今不謬中外不悖の皇道思想と全然相容れないこと勿論である。

蓋し皇道思想は金と物を心の支配に服せしむる所謂「物心一如」の日本精神であり、更に人類親善萬邦共和の世界觀であるからである、従つて此日本精神此皇道思想が世界秩序を決定する基準となることも極めて當然でなければならぬ。

註

舊秩序思想と呼べるゝ米英思想の中核は個人主義、自由主義、功利主義、合理主義であつてこれらは一聯一體のもので分離孤立したものでないとされてゐる、従て例へば之を自由主義について見るに個人的自由を主張して權力的支配を避けんとする空想社會主義となり政治的の要求と結合して自由民權思想を生じ又經濟上の要求と結合して個人の自由競争乃至營利取引の思想となるが如し。

そして之等の主義のいけないのは人類の有つ本能的向傾に思想的根據を與へてこれを世界觀として肯定せんとするところにありて就中強ひて「つちつま」を合せた合理主義抽象主義に最大弱點があるとされてゐる、従つて彼等の昌ふる相互扶助とか共存共榮は單なる夢物語りで彼等は己れが弱少化するとき忽ち強者に取殺されることを知つて居り同時に彼等は弱者を見つけたせば立所に之を捕へて其肉を喰むのである彼等は力によつてジャングルの社會を造り弱肉強食の歴史觀をつくつて世界の覇者として任じてゐたのである。

甲、英米思想に依つてどんな人生觀がつくられたか。

乙、「花より團子」とか「地獄の沙汰も金次第」とか、唯利益のみを主張する人生觀も出來「運は練つて待つ」のでなくて「寢て待て」との享樂的懶惰な人生觀も出來た、又適者生存に逆行する「優勝劣敗」とか「生存競争」とかいふ不平等を

認めた合言葉も生れたし、「樂して徳とれ」の搾取的人生觀もあり「我も人なり彼も人なり」といふ對立の社會觀もつくつたし、「金が仇の世の中」だといふ人格破壊の人生觀等々すべて海賊文化やアメリカニズムの派生的所産だ、かくて邪慾と欺瞞で粉飾する道なき世界が出来た、これこそは正に王道はもとより霸道にも及ばない世界觀ではないかこれがため孔子の「生を知らずいづくんぞ生を知らんや」とか又福澤諭吉氏の「修身齋家治國平天下」等東洋本來の思想迄が歪曲され功利的に解釋されるやうになつたのである。

参考

支那本來の王道霸道は前者が仁徳を用ひ後者が武力法術を用ふるにせよ共に國を治め天下を平げ萬民の間に道義的秩序を實現することを目的とするものである……………然るに西洋の民主々義、國際主義、帝國主義の區別にはかかる道義觀が皆無である……………（昭和十七年九月號新若人野村重臣氏）

甲、舊秩序思想は未だ殘存するか。

乙、英米の世界觀は未だ殘存してゐるのである、事實我々の人生觀について考へて

もそうであり其他一切の生活環境にもまだくつついて居る、卑近な例をとれば玉露の味がわからず紅茶がよいとか味噌汁よりオートミルの方が滋養があるなど所謂「國籍不明型」の主がないと誰が斷言できるかこれ英米思想の片鱗ではないか。翻つて目に見えない思想の流れの中にも例へば八紘一字の言葉を用ひて國際主義の原理を表現せんとするもの、又日支帶携論や大東亞新秩序論の中にも自由主義的協和論とか聯盟論とか、然らざるも舊思想を十分に清算し切らざる所謂日和見主義的思想等々其他學問藝術宗教作品等の文化面に至つても舊思想の影響を受けて居るものは末だし多い、が同時に英米思想の公式を離れて日本思想とか東洋思想に接近せんととの一般的趨勢にあることも又事實である。

甲、我々自身の中に宿る舊思想とはどんなものか。

乙、英米思想によつてつくられた人生觀は既述の如くであるが更に我々は我々自身を反省して見る必要がある、之に就て奥村情報局次長は次の如く言はれている。

「思想戰の敵は單に外だけでなく内にもある即ち我々自身の中にもある」と更に、

「思想戰の敵は單に外だけでなく内にもある即ち我々自身の中にもある」と更に、

巷間誤り傳へられる「米英の武力は討つも文化は尊重せよ」との考へ方を捨てると共に國民各自が「米英的物の考へ方なり生活態度より脱せよ」と強調され即ち我々自身の中にも舊思想あることを指摘され同時に主觀に立つての實踐を示唆されて居ることがそれである、夏目漱石は「自分の舌で舐めてみてそして之がうまいかまづいかを決めるより外に決めやうはないものだ從て他人が何と言はうが自分が美味いと思ふものでなければうまくないまた自分でまづいと思ふものならば、他人が何と言つてもまづいものである」と言つて西洋依存を斷然排斥して日本文學を打建てたといふことは有名な話であつて、又何人もかくありたいものである。

甲、それでも日本は明治維新以來歐米文化を吸収して偉大になつたのとは違ふか。

乙、日本は明治維新以來歐米文化を吸収して偉大になつたなどかく思ふこと自體が英米文化を絶讃する舊思想に外ならない、思ふに一切の文化が日本に於てのみ其精粹を残すといふことはそれらの文化が單に渡來したのではなく逆に最初日本から出たものが再び自己還元したものといふことが出來ると言はれ拜外文化禮讃の

思想を排斥されてゐる。(奥村情報局次長放送要旨)

惟ふに皇道は生成の世界に存立する道であり文字通り足地を離れの現實の道であり、世界を光被して行く道である、此道義こそ世界觀を形成して居るのである、我々は茲に無限に生成され行く我國體文化に自信をもたねばならないのである、然るに文化人の中にはまだまだ國際的文化の基礎の上に依存してゐる誤れるものがあるとされてゐることは注目に價する。

甲、日本文化の在り方に對して考古學者は何と教ゆるか。

乙、紀平博士の「讓道と奪道」と題する所論の中に「天孫降臨しまして(蒙以養正)のために費された年代だけでさへ古傳は一百七十九萬二千四百七十餘年と數へてゐる……とある。

我々は同博士の言はれるやうに、大生命の發展としての悠遠な日本の姿を見ると共に更に深遠なる文化に想到し、驚異を覺ゆるばかりである、次に岩崎陽山氏の講演要旨を紹介すれば「天照大神時代の日本の文化がバビロンやエデブ

陽山氏の講演要旨を紹介すれば「天照大神時代の日本の文化がバビロンやエチブ

トに渡りそれからギリシやローマの時代が起つた事に氣づくならば日本こそ實に世界文化の源であることが理解できる、神武天皇の神政復興紀元から二千六百二年になるものを日本建國二千六百年など誤りつたへて居ては蔣介石から馬鹿にせられる、況んや四千年の歴史を有するエダヤ人に權威が通る譯はない。

ウイリアム、ペレーは地球の上にキアノビーといふ天蓋があつた、時代には北極と南極とのみに太陽の光りが直射した此太陽が直射して居るところが今の日本に當るので日本は日の本と稱して太陽神を祀つてゐる人類中最も古い民族であり、そして天孫降臨もこの天蓋を通じて天降りされたものと信じられると述べて居る。

「スメラミコト」は上代に於て世界を統治された天皇の意味である。

其後他民族は「スメラミコト」を失つて其中心をなくして迷つてゐるのが世界の現狀である、故に今次世界動亂によつて天皇の御稜威が世界に遍照されて人類が光の世界に救ひ上げられることになることを世界神政復興といふ云々」と。

斯様な同氏の説からして深遠な日本文化を思惟するときダウインのあの進化論

が化物であつたとさへ思はれる。

問、大東亞戰に於ける思想戰の目標は舊秩序思想の全的否定か。

答、然り、だが外來文化を攝取することが悪いのではない、唯飽く迄も皇道思想觀に立ち短を捨て長を採るべきは日本精神の包攝性と矛盾しない。

畏くも明治大帝は五ヶ條の御誓文に於て「智識を世界に求め大いに皇基を振起すべし」と宣ひ、又聖德太子傳補註によれば「神道は道の根本天地と共に起り以て人の始道を説く、儒道は道の枝葉生、黎と共に起り以て人の中道を説く、佛道は道の華實人智熟して後に起り以て人の終道を説く、強ひて之を好み之を惡むは是私情なり」と教へ給ひ、嘗だ飽迄も日本精神を根本として忘るべからざることを畏くも自覺し給ふたのである。

右の御聖旨よりして外來文化を攝取することが悪いのではない、惟ふに今日英米思想が舊觀念として排撃される所以のものは英米思想が敵性國の思想であるが故であると言ふよりは今日に於ては既に有害無益な舊思想と化し反動思想となつたのである。

ると言ふよりは今日に於ては既に有害無益な舊思想と化し反動思想となつたのである。

るから之を克服せなければならぬからである。

甲、時局下昏迷の思想とは。

乙、所謂「昏迷の思想」として評されて居るものは凡そ次の様なものである。

▲一部には南方擴大を惧れ大東亞戦争は此位の程度にして支那事變處理に専心すべきであると論ずるものあり。

▲或は支那事變處理を忘れ南方進出に専心すべきを論ずるものあり。

右は何れも大東亞戦争と支那事變を別個のものと見る謬論である。

▲更に最近は「アジアは一なり」の先覺者の言葉を曲解し國境を撤廢して民族混合の惡平等的生活圈を實現せんと企圖するものすらあるが如きも、之等は謬見といふよりは或種の狙ひであつて、それは國際主義を亞細亞諸民族提携の具に變形し日本の實力的指導力を弱めんとするの類に外ならず惡質といふべきものなり、就中彼の人民戰線に躍り躍らされた人々の思想的傾向は注意すべきものとされてゐる。我々は斯る愚劣な賤民主義を鵜呑とし甘い人道主義や四海平等主義の思想

に毒せられ、いとも高きものゝ誇りを失はぬやう警戒せねばならぬ。

▲革新論者は曰ふ「全國民は進んで政府に協力しながら日本の思想界は昏迷して居る」と

そして其最大の理由は、大東亞戦争の前途に對する輕薄な樂觀論でこれこそは自由主義的現状維持派の所産であつて戦争の本質に對する認識不徹底な證左である。蓋し樂觀論が擡頭すればする程戦争遂行の手段として唱へられてゐる「革新」の必要が弱くなるからである。

之に對し又或人は斯様に憂ふる革新論者の熱誠には同感しつつも國體の大本から考へて末だしと言はざるを得ないところに思想の昏迷があるのでないかとも言はれてゐる。

▲次に極端なる反動思想と自由主義的思想である。

言ふ迄もなく我々が米英と戦はねばならぬのは經濟的に政治的に利害相反するにも由るがより以上に世界觀に於て永炭相容れざるものがあり國民生活態度に於

にも由るがより以上に世界觀に於て永炭相容れざるものがあり國民生活態度に於

ても又兩立し難きものがあるに拘らず。

「何も世界觀の相違の爲に武器をとらずとも可いではないか話。せば解ることではないか」といふのは米英の常套的口吻であつて、「生命を懸けて戦はずとも」「話せば解る」といふことは、米英思想への屈從を強要する大きな誘惑であつて其處に米英思想の陷穽があるのであつて大いに警戒せねばならぬと。又自由主義者は極端なる反動思想や不合理な壓迫があれば反撥力を發揮してそして其反動に行過ぎがあれば鬼の首でも取つたやうに振ひ立ち自己の存在を主張しそして日本の國民思想の正統者に對しても時局便乗の汚名を以て酬ひんとすると。

かくの如き反動思想や自由主義思想は單に迷へる思想といふよりは寧ろ警戒すべき思想であるとし一部覇者は日本にとつての最大の必要は米英カブレのインテリ亡者を十九世紀的反動思想から解放することであると極論するのである。

▲尙既述の論旨と重複するかも知れないが、主張の形態として少しかわかつて居るものを記せば。

曰く帝國主義は霸道に基くものなれば歐米のものであり又國際主義は王道——皇道に基くものなれば東洋（含日本）のものであるとするは獨斷であると、其理由は國際聯盟は理想として國際協調主義を標榜しながら現實に於て帝國主義に墮したのであつて國際協調主義と帝國主義は共に歐米のものであつて而かも利己打算の國際主義は道義を目標とする皇道とは勿論王道霸道にさへも遠く及ばないにも拘らず皇道、王道、霸道の區別に對する邪見により國際協調主義を以て東洋のものなりとする論は其意味内容を西洋の低俗なる觀念に擦替へて東洋の復興に抵抗せんとする假面を被つた西洋の第五列なるのであるから東亞新秩序を建設するためには先づかくの如き第五列を撃滅しなければならぬと………

甲、大東亞戦争の日本の敵は何處か。

乙、大東亞戦争が「支那事變に始まり支那事變に終る」といふことに對しての認識不足から

日本の敵は何處かと問へば「米英」だといふ間違へた即答が爲され勝ちである。

之は大東亞戦争の前進であり一環であるところの支那事變の性格がまだ充分に
 意識されてゐないが爲であらう、思ふに我が我が國は日、滿、支間の互助連環の
 國是に則り東亞の平和と繁榮を齎^{モタ}らす大方針のもとに支那事變によつて東亞新秩
 序を樹立しやうとしたのであるが米英の援助を受け其手足となつた蔣政權は國民
 政府樹立後に於ても何等反省どころか却つて英米依存の度を深め一方英米の援蔣
 反日はいよいよ露骨化し茲に於て日本は支那事變を處理するがためには(イ)援
 蔣國たる米英と蔣政權との連絡を遮斷(ロ)支那事變を戦ひ抜く爲戦争資源^{シゲン}を南方よ
 り流入^(ハ)米英勢力を東亞より驅逐するにあるとし、之が爲には反省や妥協ではわ
 が國はジリ貧に陥つて行くより外に途はないので根本的には自衛の爲に經過的に
 は東亞新秩序建設のため茲に支那事變は大東亞戦争まで發展したのであるが之で
 問題は解消^{カイショウ}したのでなく依然として残つてゐる、何故かと言へば大東亞戦争によ
 つて蔣介石が相手^{アイア}でなくチャーチルや、ルーズヴェルトが相手であることが判然
 したとしてもそれで方向が決定したのではない「最初にして最後の日本の主要な

相手は米英ではなく依然として支那である」支那をどうにかしなければアジアはどうにもならないからである、このことは大東亞戦争に依り東亞新秩序より大東亞新秩序となつて大東亞共榮圈の建設の第一歩が踏み出された今日に於て尙大東亞の基底は日本を中心とする日、滿、支が民族的に資源的に一切の行動の指導的推進母體であることから容易に推斷される理であつて日本の主要な相手は始めも終りも支那であるのである。

参考

曰く支那をどうにかせなければアジアはどうにもならないといふことは思想的に重要な意義がある。即ち、米英的なものの瀰漫するアジアを根本的に處理するに足る思想的準備がなければ日本は臆て退却を餘儀なくされるであらう目にみへる英米はこれを武力的財力的に壓倒すれば足るも目に見へない敵は無数の眷族共を引連れてここを先途と踏み止まつて闘ひつつあるわれわれは彼等に對して思想戰に於ては未だ完全なる勝利を收めてはゐないのである。(齋藤响氏思想時評)

問、ドイツの全體主義と日本精神の關係

答、ヨーロッパ新秩序の中心核となつて居るものは(イ)人間の改造(ロ)新體制に盛られた

輿論支持の獨裁政治ハ利己主義否定の全體主義であるが之はムツリーニやヒットラーが亡國の因を爲す英米的世界觀から歐羅巴を脱却さすべく打建てた新しい世界觀による新秩序思想ではあつたが豈はからんやこの新しい考へは日本にとつては新らしいものでもなんでもなく肇國以來の傳統として残つて居り、然も最も完全なものとして國民の魂の中に生きて居ることを知つてムツソリーニやヒットラーは大きいに驚き今日我國を羨望して居るそうである、從て既述ヨーロッパ新秩序の中心核たる三原則は何れも我國に於ては歴史に復古することにより解決する問題である、茲に古來萬民翼賛の實行可能なる獨特の歴史を有する日本の姿があるのである。それなるに人間改造や新體制や全體主義を恰かも發明品や請賣の如く考ふるもの若しありとせばそれは全く皮相な見解であると言はねばならぬ。

參考

獨伊の全體主義は決して行き過ぎるのではなく、眞の日本精神は全體主義以上に全體主義的である。

獨伊は其全體主義革命を通じて精神的に日本化し日本のあるべき姿を却つて獨伊に於て見る氣

持がする、それほど現實の日本は日本本來の姿を失つてゐるのである、この意味に於て全體主義は日本のあるべき姿の鏡であるといふことが出来る乍併飽迄も鏡なのであつて我等が其處に發見せんとするものは即ち日本の眞の姿でなければならぬ、徒らに獨伊の形骸を模倣するのであれば全體主義も又我國に何物をも貢獻し得ざるのみならず愈々我國の思想を惑亂するの惡結果をも伴ふこととならう。(野村重臣氏著戦争と思想三八四頁以下)

甲、日本はドイツを模倣するといふ考へ方それは間違ひか。

乙、それは認識不足であつてこれは寧ろ日本の模倣なのである………ヒットラーの獨創は悉く日本の模倣で日本から採入たのであつてナチスドイツは鏡に映つた日本の姿である………今日の總力戦といふものを始めて世界に紹介したドイツの有名なルーデンドルフ著「歐洲大戰回顧録」の中には「ドイツが更生し大いにゲルマン民族を發展させる爲には國防國家を作らねばならぬ自己主義國家では駄目だ國防國家を作るためには日本を見倣はねばならぬ、日本といふ國は世界に於て最も國防國家的要素を持つた理想的典型である」と語つてゐる………

即ち日本といふ姿がドイツ製の鏡に映つてその姿に日本人が感心して居るとい

ふことが出来る………

獨逸の指導者原理は日本原理であつて（日本古來の道）ヒットラーの政治のやり方は日本本然の姿の政治を模倣してゐるヒットラーは政權獲得後各方面に根本的革新を斷行したが教育の改革の一つとして有名な大學には悉く日本講座といふものを設け日本の國體研究を始めた、これが獨逸の政治に非常に役立つた………ヒットラーやムツソリーニの演説に如何に日本のことが出てゐるか日本を見習へといふやうなことを言はんばかりの事が出てくるのは確かに日本三千年來の姿の模倣でなければドイツもイタリーも榮へないと彼等は確信して居る………又世界は日本の國體そのものの本然のやり方といふものを如何に採入れやうかといふことに悩んでゐるといふことを茲に責任を以て申し上げ得る………（奥村喜

和男氏著國民に叫ぶ六四頁——一八〇頁）

參考

ヒットラー總統が一九三三年に政權を掌握して以來特に力を入れたのは、いはゆる全體主義的教育であるが、この全體主義はミュンヘンの大學のハウス、ホフアー教授が理論づけたものであ

る、彼は永く駐日大使館附武官として日本に駐在してゐたとき日本の精神教育と全體主義哲學に感激しこれこそ日本の力の根源であると確信し歸國するや直ちにこの哲學でドイツを復興せしめんとして早速ミュンヘン大學でこれを昌導したのである彼のこの哲學が即ちナチスの哲學の基調を爲して居る從てドイツ教育の基礎は實に日本精神教育であるといひ得る（好富駐支大使館情報部長談）

問、道と教への關係。

答、日本は神ながらの道を躬行する皇道の國である、即ち義は君臣情は父子と宣はせられたる如く人情の大自然に従ふ道の國である、それは始祖一元の血族國家である、血族國家とは非血族國家を排他するものでなく寧ろ血族關係を重んずるに於ては一切の利害や權勢を超越する情義を生み近親敬愛となり、人倫の大本となり而して人類親善なる理法の世界を創造すべき道の國なのである。

道は又宇宙の正法であつて教とは異り教なる道德の根本を爲すものである、即ち教へは道なきか若くは道廢れた場合勃興するのである、これ老子が「大道廢れて仁義あり」と言ひし所以である、斯くの如く仁義の垂教は道に引戻さんが爲である支

那に孔子が現れ印度に釋迦が現れ西洋にヤソが現れたのも其等の國の人間が道を失つたが故斯様聖人が出現して道を説いたに過ぎず佛教と言へ儒教と言へキリスト教と言へ之等は決して道に非ずして教へなのである（黒川富三郎氏著天心靈明四頁）

参考

日本は元來道の國である斷じて唯物主義の國ではない而かも其道は人情の自然に従つて發展成長し來つたものである、人情の自然人倫の大本である血族關係を中心として日本の文化文物は發展して來た、其處では個は全體に融合し全體は個を包攝して何等の矛盾あることなく總ては調和であり協力であり發展であつたそれが日本の本質であり大和民族の誇りであつた。

天の命を性と言ひこの性に率ふを道といふこの天の命にしたがつて總ての日本は生成發展したのである。

「それ物の自然なるや天下皆之を貴びその造作なるや世未だ之を重んぜずわれ國史を讀むに邦家の基自然に根させり支那の諸國未だ嘗て有らずこれわが國を稱ふる所以なり」と

虎闌は我國の根基自然に根ざし其故に強く大きく美しきことを論じてゐるこれが日本の本然の姿であるこのあるがままの日本に於ては社會主義も不要であり共產主義も不要であつたに違ひない否、道といふ言葉すら日本には必要でなかつたのである本居宣長は彼の（直隄靈）に於て次の如

く述べて居るのである曰く「皇國の古はさるこちたき教へも何も無かりしかど下が下まで亂ることなく天の下は穩かに治まりて天つ日嗣いや遠永に傳はり來ませり、さればかの異國の名に習ひて言はばこれぞ上もなき優れたる大道にして實は道有るが故に「道」てう言無く道てう言は無けれども道はありしなり、それを事々しく言ひ學ぐると然らぬとのけじめを思へ、言舉げせずとは外國の如くこちたく言ひたつることなきをいふなり」と

日本は道行はれて道の言葉すら無かつた有難い國である上もなき優れたる大道言舉げせずして行はれ天の下は穩かに治まつてゐたのである悠久三千年天つ日嗣いや遠永に傳はり來ませる傳統の國である。（奥村喜和男氏著日本政治の革新二三四頁—二三五頁）

問、物心一如とは。

答、物心一如とは物と心とは一つで決して別物でなく一つのものの兩面相で而かも物はつねに心の支配に服することを意味する、試みに萬物が宇宙靈に統一されて居る現實はつねに心がもとになつてゐることの立證である。

然るに英米人は之を逆に考へた即ち心と物を切斷し心が物の支配に廻し物が心を左右するのである故に心はつねに物の奴隸とならざるを得ぬ彼等の世界觀はかくし

補註、

て出来上つたかくて生きるが爲に食ふのでなく、「食ふが爲に生きる」といふのであつて生きることは食ふがための手段としか考へないのである、かくの如きは人格への大きな侮辱であつてそれは又宇宙正法への反逆である、其處に彼等の偽善があり捏造ネッゾウがあり邪見と矛盾を發見するのである、物心一如は斯る英米的世界觀を拂拭是正するのである。

物は精神の所産である心のそのまゝの現れでなくてはならぬ之を物心一如といふ人に物を贈るといふのは愛情の或は感謝の心を贈るのである物と心とは別なものでない一つのものの二つの相である、父母等の命日に神佛壇にお供へ物をささげるのはそれは子供等の止むに止まれぬ心の現れである物心一如の境地はここにもある………心を失つた金や物への執着は偏愛であり金や物に人が酷使されるに至る、勢ひ利己主義とならざるを得ない之を不可として利己否定への倫理觀を立てたのが儒教であつたが此儒教さへも西洋思想の御本尊たる唯物思想の影響を受け功利的に解釋されるやうになつたと言はれる其結果は遂に霸道政治を招來した。

霸道とは物の所有が心の修養より重しとされ權力が徳能を無視する人生觀だ、物と心の分離は

此唯物思想の出現以來續いて來て居る……西洋思想に胚胎せる資本主義を謬覺し所有權を不可侵の如く解して居る人は御神勅の「吾が高天原に所御す齊庭の穗を以て亦吾が兒に御せまつるべし」を謹解することは出来ないであらう、……ものは人に歸屬するだけでなく日本では一應すべて大君に歸屬するのだといふのがその信仰である（荳原信雄氏著東洋のふるさと五一頁以下要旨）

註

最近に至つて所有權を「社會信託」だと昌へられるに至つたことは同氏の所謂「物心分離」の實相は正の一つの傾向であらう。

問、死生一如の道とは。

答、死生一如の道とは皇道の無窮の發展を信じての日本人としての動作である。

國の爲には生より死を重しとし悦んで死に就くことである、「死生天にあり」「死中に活あり」などと言はれて居ることこそは日本人特有の死生の哲理なのである。言ひ換ゆれば死生一如の道は日本精神の精髓たる沒我の精神の中に含まれてゐるのである。

日本精神の精髓を最も端的に表はしてゐるものは萬葉集にある大伴家持の歌だ

海行かば水づく屍山ゆかば草むす屍

大君の邊にこそ死なめ願みはせじ

この歌こそは日本人の世界觀、日本人の人生觀、日本人の死生觀の表徴だ、曾てヒットラー總統が日本の國體日本精神を學ばしむべく日本へ派遣された獨逸將校が此歌の講義を聞いて感極まつて例へやうもないとし「私の歸國土産は此の歌だ」と言ひつづけたそうだしもありさうなことだ。

屍を水に沈め草に埋めると決め願みず天皇のみ側に死ぬといふ日本人特有の精忠の大乗觀が躍如として居るではないか、茲に日本魂の精魂を發見するのである畏くも明治大帝の御製に

ことしあらば火にも水にも入らばやと

思ふがやがてやまとたましひ

我等幾度か拜誦しなければならぬ。

日本人の世界観とは日本人らしい物の見方感じ方乃至物の考へ方をいふ此日本人の世界観と死生一如はつねに一致するものと考へる。

問、死生一如の道を外國人はどう見るか。

答、番だ驚いてゐるばかりである過般のマレー戰線に於て彼の敗戰の將「ベネット」は「日本の軍隊に我々が敗けたのは日本の軍隊の攻撃精神が濠洲の軍隊よりも強かつた」と言つたそうだが何故日本の軍隊の攻撃精神が強いかは全く知らないのだ、日本の兵隊と濠洲の兵隊とは其攻撃精神の質が違ふのだといつてもそれでも分らない、最近に於けるニュースに依れば英國はセクターに於ける兵隊募集のポスターに「國民よなるべく澤山軍隊に入れ、軍隊の食事はおいしいぞ、仕事は必ずしもきつくないぞ、そして音楽も聽けるし酒ものめるし尙スポーツも楽しめるぞ」と書いてあつたとあるがこんな國の軍人や國民に日本軍人の攻撃精神のの質など分つたら不思議だよ、曾て日本研究の一人者たるイギリスの「チェンバレン」に古事記の研究

をして貰ひ又日本の文典を検査して貰つたことがあり、それがためチエンバレンは「シングル、ジャパニース」とか其他たくさんの本を書く等凡ゆる日本の古典學者であつたが彼は又驚く程日本を知らなかつたといふことであるに至つては推して知るべきである。

死生觀について過般バスの中で千人針を抱へた日本婦人を繞つての或外國人と日本人紳士との間に繰返された問答を次に紹介しやう。

外國人……「あの千人針は出征軍人に贈るのだそうですがあれを締めると敵の彈丸が當らないと言ひますが本當ですか。」

日本人……微笑んで「何—にあの帶を締めると彈丸が特別によく當るのです、彈丸よ我に當れ、といふ願ひのもとにあれを締めるのです、あれは彈丸除のまじなひでなくて彈丸よ當れのまじなひです。」

外國人……驚いて「そうするとあれは戦死をする爲ですか。」

日本人……そうですとも「戦死こそ日本人の最高最大の名譽です、出征する軍人に

生き還らうなどと願ふものは一人も居りません、御國の爲に美事な戦死をするこれが一番の望みです、そこであの白布を千人の人から針を通じて貰ふのが千人に當る彈丸を我れ一人に當れと願ふ心です。」

外國人……吐息タキイキについて「ホー日本軍人は全く偉いもんですね實に清い心ですね。」

日本人……「日本軍人は大死クシシを一番嫌ひますそれであの千人針は大死をさせない爲ともう一つは軍人としてのやましいところがあれば千人來つて我れを刺せといふ心です、日本軍人は身命を輕んじるのではなくて名を重んずるのです、これが千人針の意味です。」

外國人……三度びつくりして「ふーだから日本人は強いんですね」

だが如何に當の外國人が驚吃しても吐息についても日本人の特有の死生觀は仲々分らないのだ。

甲、死生一如を繞つて日本人から質問した場合英米人はなんと答へるであらうか。

乙、前例を逆にして次の如き問答とならう。

日本人……「我軍は敵を発見すると「しめた」と思ひますが英米軍は日本軍に遭遇

したらどう思ひますか。」

英米人……「しまつたと思ひます。」

日本人……「我軍は大君に命を捧げまつることを無上の光榮と思ひます、英米軍はどうですか。」

英米人……「英米にはそうした中心がありません、だから英米軍人にはチャールズ・ルーズヴェルトの爲に命を捨てやうなど思ふものは一人もないでせう。」

日本人……「我が軍は右へ行けば死、左へ行けば生き得るといふ岐路に立つた場合右へ行くことが國の爲と思へば例外なく右の方へ行つて死を求めますが英米軍はどうですか。」

英米人……「英米軍は例外なく左の方へ避けて生を求めます。」

日本人……「我軍は過去二十餘間晝夜兼行の猛訓練の爲夜でも目がみへますが英米軍はどうですか。」

英米人……「英米軍は夜間は休息の時間となつて居りますのでトランプ、レコード、ダンス等に耽つて居りますから、夜戦となれば一寸先きが見へず逆も閉口します。」

日本人……「日本軍の強いのは單り軍隊のみがつよいのではなく國民全體がつよいのですが、英米はどうですか。」

英米人……「我は我れ、人は人で、一線と銃後は全く別物で戰場を逃げ出せといふ人すらざらにあります。」

問、ユダヤ民族小史と思想動向。

答、ユダヤ民族は西紀前約一四〇〇年前より一二〇〇年の間メソポタミアよりパレスチナに漂着した遊牧のセム族であつてそしてその大部分はエジプトに渡り一時奴隷の境遇にあつたが間もなくモーセに率ひられて「出埃太」となり曠野に彷徨ふこと四十年にして西紀前一二五〇年頃モーセの後繼者ヨシエアの指揮下にパレスチナに歸りサウル及びダビデヲを平定し西紀前一〇〇〇年頃イスラエル王國を建設せるも

各支族間の激烈なる葛藤に依り其王國は二分され南北二王國を建設したるも約半世紀を出でず其一つはバビロニア王に他はアッシリア王に征服されてしまつた。

而して其等エダヤ人の多くは征服國へ移送されたのであつたが更に其後アッシリア帝國を倒壊せしめたバビロニア帝國が又ベルシア王に征服された爲バビロニアに囚はれてゐたエダヤ人も釋放され各種商業智識をたづさへて故地に歸還したのである、其處で斯る歸還者をエダヤ人と呼ぶに至つたものでエダヤ人の歴史が此處に發端せりと傳へられてゐる。

爾來彼等は國家なく種々の迫害を受けた。

ウイリアム、ハミルトンは西紀二十年から一七四五年迄の間エダヤ人が歐洲各國から追放されたこと五十一回虐殺十三回の歴史を持つと發表して居ることよりすれば彼等が幾多興亡の運命に佇たされたかが追想に難くない。

而かも追放や虐殺を受けたエダヤ人は隱忍結束を固めて復讐に出ることが常で、かくして歐洲の眞の歴史はエダヤ人と他民族との復讐の連鎖だと言はれてゐる、何

故か？これには二つの原因のあることを見逃してはならない、其一は歐洲人は個人本位で所謂バラバラ的存在である其處をエダヤ人は狙ふといふことである、即ちエダヤ人の團結と相互扶助の強みがバラバラで個人本位の他民族を屈伏させて支配的地位に立つのである、エダヤ人が歐米人を輕視する原因もここにある、乍併、エダヤ人の斯る支配力は自己本位で、人爲的で嚴かなる天理から脱し得ず之が爲エダヤ人は何時も元も子もなくしてしまふことが其二であつて、かうした理由よりたへず民族間の鬭争が展開されるのである。

甲、エダヤ人は如何なる性格の民族か

乙、エダヤ人がセム族であることは既述の通りである従てエダヤ人を知らんとせばセム族を離れて理解し難い。

アラビアの沙漠を放浪して居たセム族は牛羊を追ひながら時々交易のためメル市に赴いたそして彼等は交易の小利を棄てて掠奪の大利に走つたかくて彼等は沙漠の貿易業者であり同時に掠奪者たるアリババ的隊商となつたのである、セム

族がスメルを征服して建設したバビロニア帝國は商業的帝國であつたので其商業發達との共に六十進法を以てする貨幣制度が創案されたのである、從て金融事業は彼等の得意とする處であつて今日の銀行の先驅は此處にあると傳へられてゐる、バビロニアの王子ベルシャザールが羊毛代金を一商人に貸付たといふ記録の如きはセム族の旺盛なる營利心を興味深く物語つてゐる一例である。

かくの如くして貿易と掠奪、商業と侵略とは永久にセム系文明の特質となつた、之等は嫌惡なるエダヤ人の特徴たる極端なる功利的排他性不同化性と結びついてゐる、而かも之がセム系文明の特質であり從て又近代ヨーロッパ文明の特質でもある、然ればヨーロッパ文明の今日の行詰りは其根源をかけるセム系傳統に存するものであらうことは容易に首肯できるのである。

甲、エダヤ人の守護神は何であるか。

乙、彼等の宗教は一神教たるエダヤ教である、フブライ語ではエホバの神を守護神として信仰しそして其思想は獨斷的で我等こそエホバの選民なりと自任し其全能

の一神の冥助とメシアの出現による世界征服を夢想してゐるのである。

甲、世界に於けるユダヤ人の分布状況。

乙、アメリカユダヤ年鑑に徴するに世界に於けるユダヤ人口總數は約一千六百十八萬一千餘人であつて其中ヨーロッパが約九百三十九萬四千餘人アメリカが五百三十四萬三千餘人アジアが八十一萬五千二百餘人アフリカが六十萬一百餘人、オーストラリアが二萬七千餘人で我がアジアは世界總數の五%餘に當る。

甲、日本にはどの位のユダヤ人が居るか。

乙、約二千人であると言はれてゐる、之は權威あるロンドンのジエイツシエクロクロ發行のユダヤ年鑑と一致してゐる。然し日本人にしてユダヤ思想抱持者がいくら居るかといふこととは別問題である。

甲、ユダヤ問題が我國に始めて公然と紹介されたのは何時頃か。

乙、大正十年六月東大助教授今井時郎氏發表の「所謂世界的秘密結社」で次に大正十一年一月陸軍大學校露語教授樋口艶之助氏發表の「裏面より觀たる西伯利亞事

情等が始めてだと言はれてゐる。

甲、其後の経緯はどうなつて居るか。

乙、爾來學界、思想界、政界等にユダヤ禮讀者乃至無批判なるユダヤ抱擁慈育論者等出で特に財界にはユダヤ追隨主義者が嗾出した更に彼のフリーメーソンの外廓團體であり拜外主義者のルツボであるとさへ評されたロータリ俱樂部（前身は國際ロータリ俱樂部）日本ペン俱樂部（前身は國際ペン俱樂部）其他曾ての昭和研究會等には相當數社會上流者が加入してゐた。

甲、ユダヤ問題が危險視さるる理由。

乙、ユダヤ民族は前述の如き性格に加へ總體に生産者でなく寄生者であり搾取者である、即ち他民族に寄生しこれを搾取するの外生活の道を知らない民族であつて目下獨伊は相當徹底せる反猶政策を確立して居るとある、從て今次歐洲戰爭に於て獨伊が最後の勝利を獲なばヨーロッパユダヤ人は身を置く處なきに至る、アメリカ又有力なる反猶運動が底流してゐると言はれる。

さればとて彼等は未開の地を開拓して新天地を創造するといふことは寄生民族の特徴に鑑み爲すところでなくかなれば彼等は一體何處を住家とすべきか、結局東亞移住が必至とされるならん、現に最近ユダヤの指導者たちがユダヤ人五十萬の滿洲移住を企て失敗した例もあり更に支那事變來上海に於けるユダヤ人の刹到は一時恐るべきものがあつたといふ。

かくの如くんば今後東亞に於けるユダヤ問題は寔に重大なる民族問題となる危険性が多分にある、一方財界人文化人が全くユダヤ勢力に浸潤されてゐながら之を警戒するの用意なく従てユダヤ研究は學界とも縁が薄く其立證方法も立論表現も極めて不手際であつたことは事情已むを得ないことながら不幸なことであつたと言はねばならない。

更に憂ふべきは其本質的問題である、一部には在日ユダヤ人がドル買をやつたとか密輸をやつたとかを「恐るべきユダヤ禍」として取扱つて居る向もあるが其様な些末なこととは違ふ即ち其「恐るべきユダヤ禍」とは我國國民經濟の全體が機

構的にユダヤ國際金融資本に従屬し其の意のまゝ死命を制せられて居たことが思想にまで浸潤してゐることである。

それなるに前述の如くユダヤ問題が等閑視されてゐることは極めて危険と言ふ可く時代の様相と照し不可分的に熟考されねばならないからだとされてゐる。

甲、フリーメイソンとは何か。

乙、フリーメイソンは國際秘密結と解されてゐるが其正體については甲論乙駁ではつきりと擱まれてゐないが或權威者は次の如く言つてゐる。

フリーメイソンは其外廓團體と同じく世界を幾十かに區劃した怪奇な歴史と實體を有する「地下組織」の團體で其の例としては赤色帝國主義がそれである、フリーメイソンが確實なる歴史的存在となつたのは十八世紀初め頃で其の場所は英國であつた、これは反宗教的なる啓蒙思想の鬼子とも稱せられる一種の代用宗教の性格を帯びた怪奇な半公開秘密結社で人道主義的陰謀結社である、之には最近まで英國系及大陸系の二系統があり前者は英國の世界侵略政策の後楯を爲し後者

はフランス、赤色ソ聯の支柱をなして居た、マルクス主義の開祖マルクスもユダヤ人であることは周知の通りであり

フリーメイソンの純ユダヤ秘密結社をブライ、ブリスと言ひ現在アメリカに本部を有してゐる、フリーメイソンの地底組織について注目すべきは「聖書」と「團體」と「洞穴」で此装具の意義を認識するものゝみが、ルーズヴェルト、チャール、インデン、リトウイノウ、蔣介石の行動を知つて居るのである、そして此地底勢力は偉大なもので英米的全權政治も、唯物思想に立つ赤色政治も、重慶政權も此地底勢力が支配して居るのである、地底組織には「大救急信號」といふものがあつて此信號を受信したものは萬事を犠牲にして救援に赴かねばならぬ盟約となつて居るのである。

而して此結社の目標は何かと言へば、世界革命の手段に依る世界共和國の建設である、國際聯盟は此實現の爲に同結社員たりしウィルソンが一役買つて出たものである。

上述の目標と手段に適合する限りに於ては如何なる方法も採用され、從て國民主義思想が勃興すると見れば「國民政府」の名を僭稱し又民族主義の風潮に際會しては「民族獨立」を擬稱するのである、そして出來得べくば世界を攪亂しやうとするのである、從て彼等は今次世界動亂に於ても反樞軸國の弱體化が望ましいと同時に樞軸國の弱體化も望ましいのである」と。

兎に角地球を蝕む惡魔ではある。

甲、今次大戰に於て英米崩壞相を教ゆるもの

ユダヤ人にあると云ふが其根本的理由如何。

乙、獨伊を除く今日の歐米各國が所謂「二重國家」であることがそれである「二重國家」とは今日の英米は眞の英米人國家でなくユダヤ力なる裏面勢力によつて支配されて居ることを指す。

凡そユダヤ力に繋がるとも見るべき今次大戰は戰畧的には戰線擴大とゲリラ戰に依る長期戰化であり、政治的には各國に社會革命を起さしめ政體を漸次崩壞せ

しめんとすることが彼等ユダヤ人の狙であり更にユダヤ謀略の信條たる(イ)民族傳
統の破壊に依る唯物化(ロ)階級の對立化(ハ)不和戰術(ニ)眞實の歪曲化(ホ)他民族の國際
依存化(ヘ)道義責任の歪曲(ト)兩建主義に依る利己要請(チ)觀察と判斷の未來指向(リ)團
體の否定(ヌ)個人と國家の對立(ル)言論機關の獨占的動員に依るユダヤ化(ヲ)一切の搾
取等々である、而かもチャーチルやルーズヴェルトは其裏面勢力たる元綱を握る
ユダヤ人の傀儡であると言はるるに於ては驚くの外はない。

米國のリンダバーク大佐夫人アン、モローは其著(未來の波)の一節に曰く「ル
ーズヴェルト一派は米國に侵入せんとするドイツの機械化部隊に對して防禦を固
めよと叫ぶが其前にわれらは過ぐる第一次世界大戰以來凡ゆる民主々義國が侵さ
れて來た廢頽と弱體と盲目に對して闘ふべきである。

われらは現在空襲の危險よりは寧ろ歐洲に不幸を招來したと同じ状態から來た
危險に曝されてゐる」と悲痛な叫びをして居るが此廢頽と弱體と盲目が現今の獨
伊以外の歐米に一貫する現象でそれが所謂「二重國家」なる歐米の國家相である。

甲、リンダバーク大佐夫人の叫びはルーズヴェルトに響いたか。

甲、リンドバーク大佐夫人の叫びはルーズヴェルトに響いたか。

乙、リンドバーク夫人の叫びはルーズヴェルトにして見れば嘶話に等しいものとして受けたであらう。何故かと言へばアメリカの識者中には合衆國の今日あるはエダヤ勢力がある爲だと考へ從てアメリカニズムを呼ぶところのものは實は蒸溜されたエダヤ精神に外ならずルーズヴェルト自身が又エダヤ的思想抱持者であり、してル大統領榮位三回の獲得もエダヤ財閥の力に負ふ處尠からず更に大統領夫人エリナーはエダヤ人より慈母の如く慕はれ從て夫人のエダヤ人に對する憐愍の情は殊の外篤く今次大戰に至つても窮迫したエダヤ人子弟の養護の爲大々的會員を募集したと傳へられてゐる、加之ルーズヴェルトは大統領三選後爐邊談話に於て「アメリカは民主々義の巨大なる兵器廠である」と表明し而して露骨なる英米共同宣言すら行つて居るからである。

甲、ルーズヴェルトはエダヤ人か

乙、ルーズヴェルトはエダヤ人の子孫なりと言ふものもあり或はセム族の第二世だ

とも言はれてゐるがアメリカではユダヤ人とカトリック教徒とは大統領たり得ずとの不文律が存することよりしてルーズヴェルトを以て直ちにユダヤ人と看做することはどうかと思ふ、而かし生母ジエームスを中心とするルーズヴェルト一家とユダヤ人との關係が極めて淺からぬものであることは事實だとされてゐる。

甲、ユダヤ主義と歐洲樞軸國家との關係

乙、ヒットラーは前歐洲戰爭時ユダヤ人の魔手に踊らされたことをよく知つて居るし又今次の大戦に對してもイギリス、アメリカ、フランスの三國は國なきユダヤ人にとつての心地よき溫床であることよりして今回のイギリス、アメリカ兩國の懸命なる合作行爲も畢竟其背後にユダヤ人あるとの觀點より今次大戦は正にドイツ對ユダヤ金權との抗爭だとさへ見てゐるだらう、故に一九三九年七月イギリスの對ドイツ宣戰布告に對抗して曰く

「ユダヤ人の反ドイツ運動こそイギリス並フランスを驅つて對ドイツ宣戰に赴かしめたのである」と宣言し、次で昨年五月ナチ黨宣傳部長ローゼンベルグも又フェ

ルキツシエル、ベオバハター紙上に於て「エダヤ金融財閥は其全力を擧げて獨逸に宣戰した之はドイツがエダヤ金融國家の獨裁を打破しドイツの文化並にドイツの過去を汚すものを放逐したからであるドイツに對して今日の宣戰を爲すものは即ちエダヤ的イギリス的利潤慾に導かれた資本主義的十九世紀でありドイツの味方に立つものは即ち目覺めたる二十世紀である」と言明してゐる。

更にベルリン特派記者の傳ふところによれば

「ナチスドイツの考へでは西歐文化はエダヤ文化に餘りにも毒されてゐる歐洲をこれ以上西歐の支配に委ねるならば歐洲文化は結局エダヤ文化の支配におかれて没落の一途を辿るばかりだ、かくてドイツ人のエダヤ民族に對する憎惡の強烈さは未だエダヤ人の害を被つた經驗のない日本では想像もつかないし理解も困難だがドイツに來て始めて知ることが出来る前歐洲戰爭は戰敗國としてドイツ國民が塗炭の苦しみをなめた當時政界、財界を牛耳り巨利を博して豪奢を極めたのはエダヤ人であつたその當時のエダヤ人に對する憎しみはドイツ國民の腦裡にきざみ

こまれてゐるこの國民感情を土臺として成長したのがナチス運動であり従て反エダ思想がナチズムの根本思想となつてゐる。

ドイツが歐洲大陸に於ける戦争に勝つて歐洲の霸權を握るときそれは必然的に歐洲からのエダヤ勢力の一掃を伴ふものだ。

すでにドイツは其占領下の諸國に於て眞先にエダヤ人問題の解決に手をつけた。要するにドイツの新秩序は反エダヤ主義を度外視して考へることはできぬ三國同盟によつてドイツと結んだ日本は此ドイツの反エダヤ主義とエダヤ人其のものをよく理解してかからねばならない。

何となればドイツの戦はエダヤ的な一切なものに對する戦であり此ドイツと日本が結ばれた限り世界に散らばるエダヤ人は其金力を以て結局日本をも敵とするであらうからだ。

日本はエダヤ人に對してのみならず如何なる他民族に對しても人種的憎惡を持つたことはないがエダヤ民族が唯一の武器としての金權主義(金力)がすべてを支

配するとなす思想はもともと我が日本民族と相容れぬものであつてこの思想に對してはドイツを待つまでもなく徹底的に戦はねばならない」と

問、エダヤ人は戦争にどんな手を打つか。

答、伊太利の「ルツアツチト」といふ人の回想錄に「日露戦争の始まる前フランスのニエース會議に世界各國の要人が列席して日露國交には危険はないと見極をつけたがそれから間もなくフランスのエダヤ財閥から「日露戦争始まる」といふ通報があつたが果して戦争は始まつた實にエダヤ人は一國宰相よりも國政に通じて居る」と述懐してゐるとかなるがそれ位エダヤ資本閥は世界的なスパイ網を張り巡らしてゐる、又エダヤ人の秘密結社とも目せられて居る「フリーメーソン」は前歐洲戦争開始前にあの導火線となつた「フェルチナンド太公」が暗殺される前に既に「フェルチナンド太公皇位に即く前に死ぬ」と發表したそうだが果して然り、して見ると畢竟前大戰の導火線はエダヤ人によつて豫告されてゐたと言はねばならない。

而かも前大戰にエダヤ人を利用しそとなつた、カイゼルは敗れたではないか、豪

雄ナポレオンはエダヤ人を利用しあれほどの大仕事に成功したが後にはエダヤ人に寝返りを打たれて遂に失脚して居るのである。

斯様にエダヤ人の勢力は非常に大きいもので世界のバランスは彼等が主力となつて操つて居るのである、で常に何處かに戦争を起さして一儲しやうとの手を打つのである其一例としてはハースト系の新聞がある、UP、AP、等皆然りで兎に角世界中の主要な通信網を握つてそしてそれによつて戦争を煽動するのである、戦争さへあれば儲かると思ふからだ、前大戦を焚きつけた裏にエダヤ人があつたくせに平和會議の裏にも又エダヤ人があつたのである、今次戦争を勃發させたのも又エダヤ人であつた事はヒットラー總統が屢宣言されて居ることであり、獨伊の強烈な反猶政策が之を裏書して居るものであることは既述の通りである。

エダヤ問題を考へるとソ聯の共産黨の問題が自ら解決する、エダヤは共産主義によつて世界に挑戦して居ながら一方に於ては戦争を嫌つて平和を昌へるのである、こうした兩極端で世界を攪亂するのである。

斯様にユダヤ系統から來る思想とこれに絡む、經濟的狡猾性とが未恐ろしい大敵で此流れを吸むものに我等の敵イギリスがありアメリカがある場合によつては獅子身中の虫が巢食つてゐないとも限らないのであらう。

問、中國共產黨は如何に暗躍するか。

答、一九三五年の第七回コミンテルン大會の結果、戰術の轉換後に於ける彼等の宣傳は目立たず微妙である、殊に彼等の謀略は巧妙にして恐るべきものがあるのであるに拘らず國民が之を深く知らないといふことは不幸なことであるとさへ言はれてゐる、そして又現に日本が一番困つてゐる北支の治安攪亂の當の相手だからには其實相を國內にもつとはつきりさせる必要があるのではないかと、斯様な理で一説には今例へ蔣介石が南京へ和平を申込んでも北支那新疆省等廣域に根を下す共產黨を掃討せん限り逆も支那事變處理は言ひ得ないとの觀點より識者は之を重要視して居るのである。

何分彼等の宣傳方針は底流に合流場面を利用するから非常にわかりにくい従つて

捕まへて調べても仲々共産主義といふ證據が擧らず、それだけ陰險性もあるのである。

今中國共產黨の内幕に關し報導されてゐる一、二を拾つて見ると次の如きものである。

(一) 通貨政策、物資政策に於て相當生きた謀略をやつて居ることである。

其一例としては北支那の聯銀券は日本の勢力範圍から品物を買取する場合にのみ使用し自分の勢力範圍では使はせないことである、従て自分の勢力範圍では別な紙幣を大體四つの主なる共產黨の銀行に發行させる、そして偶々日本の勢力範圍から、品物を買ふときには聯銀券を引換へて必要なものを買ひにやる、つまり自分の方の必要なものは出さぬといふやり方である、従て品物がこちらよりも比較的潤澤であるといふことも茲にあるのであつて、斯様にして日本の經濟工作を妨害して居るのである。

(二) 次に共產工作にはアルファベットで支那語を廢める運動も爲されて居ると言は

れ、其他女闘士の眞剣な演劇活動も行はれて居るらしいのである。

(三) 次には、支那共產黨の思想謀略宣傳の中心學校となつて居る延安の「共產抗日大學」であるが此處では抗日教育とかマルクスの理論戰術を習得するのである。

而して共產抗日大學は支那青年の憧れの的であつて一時應募者が一日五萬人もあつたといふから全く驚くの外はない、従つて入所者は嚴選主義を採り濫りに採用しないのである。

其他幹部養成學校も澤山ある、では共產黨の思想宣傳といふものを一體どういふ力で、如何に抑へるかこれが我國並北支那當局の最大關心事であるが、本質的な問題としては思想に對抗する爲には、それ以上の思想を以て行くより外に途がないとされている。

(四) 更に彼等のやつて居る思想謀略で警戒すべきは科學主義——つまり日本が今全國を擧げての科學振興といふ波に乗つて國體明徴とか日本精神の涵養とかいつて

もそれだけでは話にならぬのであればもつと科學的でなければならぬ」といふやうな思想運動がそれである。

此科學的といふ態度が日本の新建設の思想體系のアンチテーゼであつてこれとぐんぐん引伸ばして行けば、そういう素地が出て來ると言はれてゐるのである。今一つは「ヒューマニズム」である、これは一見誠實にやつて居る仕事でも實際には敵味方が逆さまになつてゐるやうな結果に導かれてゐることである。

更に彼等の狙つてゐるのは軍官民離間、厭戰反戰思想、樞軸離間策動で今後に於ける之等思想動向は嚴に警戒を要するものであらう。

問、重慶は思想的にどんなに變化を來しつゝあるか。

答、新聞紙の報ずる處によれば支那事變勃發以來に於ける日本の努力にも拘らず支那人には全く戰爭の理念なるものが徹してゐなかつた、日本は支那人を敵とするものでなく「東亞永遠の安定確保」の爲己むを得ず抗日蔣政權を膺懲せんとするものであつて眞の狙ひは其の根元を爲す英米勢力を東亞より驅逐するにあるのだといふ戰

爭理念が殆んどの支那人の實感に受け容れられてゐなかつた、偶々斯る戰爭理念を耳にするものも、「でも日本の爆撃を受けてゐるものは自分達で米英ではないでな
いか」といふ風に誤り傳へられてゐた、然るに大東亞戰爭以來日本の眞の敵は米英であるといふ現實の證明をつきつけられてより徐々に日本の戰爭理念が闡明されつ
つある、最近抗日陣營にありて評論家として活躍してゐた「陳友仁」は大東亞戰爭
の勃興を知つて次の如く心境を洩してゐる。

「今迄の戰爭は日本と支那との戰であつた、この時期に抗戰を主張し日本に抵抗
することは當然であり正しかつた、然るに今や事情が違ふ、日本は東亞の侵略
者である英米を敵として開戦したのである、抗日運動は即時停止すべきである」と
其主張たるや日支の同甘共苦迄は行かざるも反響尠しとせず。

又近くは抗日論者であつた支那の或青年は

「支那が日本の攻撃に對して飽迄抵抗するのは國を亡ぼさない爲である、而かし
日本が東亞に於て英米に對抗し得ない迄國力を消耗することを吾々は希望してゐ

るのではない、何故なれば日本が東亞に於て實力を喪失した場合疲弊せる支那は英米ソ聯の壓迫下に益々植民地化され、而かも其弊害は事變前に數培するであらう、だから吾々は日本が英米に勝つことを希望する、又日本の實力を保存せしめる爲には適當の時期に事變の結末することを期待してゐる。

それは吾々のみでなく心ある重慶人の願である。」と

斯くの如く、抗戰陣營の動搖に伴ふ思想的反響は大きい波紋となつて將來を劃するであらうことは想像に難くない、之蓋し「希望なき抗戰の永遠」と大東亞戰爭の發展に伴ふ「抗戰思想の分裂作用」を意味するものであつてとりもなほさず重慶政權の抗戰低下を裏付するものに外ならず。

甲、支那民衆へ戰爭理念が浸透する日は近いか。

乙、谷水大毎上海支局長談に依れば。

「既に部分的には浸透しつつあるが而かし重慶下の民衆は嚴重なる言論統制を受け大東亞戰爭が行はれてゐることすら、未だし知らないものが大多數ある現状で

ある、而かし民衆の目に映ずる現實は彼等の心理を批判的ならずにおかないので米英依存體勢の崩壊は時期の問題となつた、かくして大東亞戰爭以來廣袤七百五十萬平方呎の支那と四億民衆の面貌が變りつつあることは事實だ」と

甲、全面和平促進の鍵として残されてゐるものは何か。

乙、王主席談としての南京特電に徴するに。

「重慶の抗戰心理には新らしい變化が起つた、それは我々は英米國の犠牲に供されて戰ひつつあるのだ」といふ米英に對する重慶の見方なり考へ方が近來著しく變つたといふことである、從て全面和平促進の鍵として残されてゐるものは・日本を依頼させる・といふ工作だ、之が爲には大東亞戰爭の成否は中國の存亡に關するのだ事を強調し全國民にハッキリ認識させることが肝要だ之が又和平工作の根本を爲す國府強化の重點でもある」と

尙、谷萩大本營陸軍報導部長の言葉の中に最近重慶より國民政府に参加して來た要人等が「重慶側に於て最も危惧されてゐるのは日本側の善政による支那民心

の離反である」と語つたことを傳へられてゐるし、又湯澤内相が屢事變處理新建設の根柢は善政以外にないと言はれたこと等を綜合して考へると善政と大東亞戦争の性格を認識することが、和平促進の鍵である。

甲、英米の深刻なる敗退にも拘らず蔣政權の抗戰事由如何。

乙、米英と蔣政權との關係を遮斷すれば支那事變は解決されるといふ考へ方は單純過ぎるのである、今彼等が抗戰をつづけてゐると言はれてゐる事由を概記すれば次の如きである、

- (イ) 蔣一派は一途に英米に依存し窮極の勝利を盲信してゐること。
- (ロ) 蔣自身が戰ふことによつて英雄的自己満足に陶醉してゐること。
- (ハ) 反撥、協力共に無表情な支那民族の性格があらゆる苦痛に耐へる驚くべき強韌な性格と結びついてゐること。
- (ニ) 民衆を自己の^{ワッナイ}枠内に封じ込んでゐること。
- (ホ) 蔣介石は便宜主義的樂天的第三勢力利用に誇りをもつ支那民衆の性格を巧みに

利用して惡質宣傳を行ひ其方式として米英狂信と土地の擴大と人口の夥多を利用して居ること。

問、南方占領地の思想動向。

答、現地通信は次の如く傳へてゐる。

過般大毎現地特派員がマニラ總攻撃を前に投降してきたフィリッピン人に對し「そんなに皆が不服で投降したいと言ふならば大舉して上官をやっつけ投降して來たらよいではないか」と聞いたところ投降兵は異口同音にそれは仲々困難であるといつたそうである。

彼等は又蘭印、スマトラ、昭南島と周圍の地域が悉く日本軍に占領されて何處からも援軍の來やう筈がないこと明瞭であるに拘らず矢張りいつか援軍が來てくれるものだと思つて居る、斯様に米國が四十年間に亘りフィリッピン人に植付た拜米の觀念は根強いと報じてゐる、こうした傾向は蓋し南方一體の現象でもあらう。

甲、斯様に多年に亘つて培つた彼等舊思想の匡正は可能か。

乙、南方の現住民でありながら中には日本に電車があるかとか汽車があるかとか、聞くものが尠くないらしい、そして又日本の飛行機が飛んで來ると獨逸人が操縦してゐると思ふてゐるものもあるといふ、又中には顯微鏡の様な精密機械を示して此機械が日本に出來るかと質問するものもあるといふ様な風で日本に對する理解が極めて乏しく偶々見せる彼等の協力振は表面觀に過ぎざるものがあるので日本人側に於ては之を見て憤慨する人さへあるらしいが、それは憤慨する方が誤りであるとされてゐる程容易ならぬものがあるが決して不可能ではない。

徳富蘇峰先生は「平和の戦争」と題し次の如く述べられてゐる。

「我等には我等の與國ドイツ人よりも倍加の困難が降つて來る、それは我東亞の隨所に於てアングロサクソン人崇拜の陋習が牢固として抜くべからざる根を下し株を張りて居ることだ、それはヒリツピンでもマレーでも蘭印諸島でもビルマでも凡有る方面に於て其程度の濃淡厚薄はあるが皆然りと言はねばならぬ。

彼等は自から卑しめ英米人を崇拜しつつある、されば如何に日本人が戰勝した

りとしてそれは概ね一時的のことと思ふてゐる故に彼等は東洋流儀の所謂「面従腹背」で如何に即今我皇軍を歓迎したとてそれが彼等の我皇威に心服した證據とは猝かに斷定し難きものがある。

ドイツ人の占領地に於ける只だ秩序と安寧とを保持し利用厚生の措置を施せば足る然るに我等はその以外にそれ以上に彼等を思想的に信服せしむるの道を講ぜねばならぬ、所謂平和の戦争は思想の戦争である………

更に兎角日本人は己を以て他を度る癖がある、同じく東亞の民族でも銘々特殊の性格がある、それを日本人同様無差別に一視するは大なる間違だ云々」と提言され思想的に心服せしむる方途を講ずることを強調されてゐる。

甲、占領地に於ける原住民は皇化に感激なし居るや。

乙、砂田軍政顧問談に依ればマレー人が皇軍の差別待遇撤廢で日本人と同じ机で仕事が出来ゐるのを感激し献身的に働いて居りそれは原住民程日本の兵隊の強いのと其武士道的統治に信賴をかけて居るとかなる、そして、

皇化を自負するものは占領地住民だけでない其影響は實に世界的である、ハンガリー、フィランド國民ですら「我々は顔は歐洲化して來たがわれ／＼の祖先はアジア民族だ今此我々の兄の國日本が大アジア建設に雄々しい戰を挑んで居る心から慶祝すべきだ。」と

語つてゐるらしい。

甲、思想善導の考究はなされつつあるか。

乙、之には先づ多種多様の南方民族の研究が必要だとされ我現地軍政部では來年度豫算に三百萬圓を計上して民族研究所を設立せられることになつた去る五月十九日の文部省の發表にも民族研究所設立準備委員が詮衡され本年七月より共榮圈内の人種、臺帳を作製して民族檢討を開始せられるやうになつた事は、新聞紙報導の通りである。

更に現地軍政の治安根本方策としては抗日共產黨敵性分子は嚴重處罰し其代り日本の統治に忠誠を誓ふものは誰でも徹底的に保護するといふ所謂賞罰主義が行

はれて居る。

甲、民族的共通の反響はないか。

乙、大東亞戦争以來英米軍が日本軍に數倍する兵力と武器を擁しながら敗北をつづけて居る根本的な原因は民族の心の底に流るる根本的なものの衝突であつたかも知れないのである、その一例としては米比兵の投降者が炎熱街頭で水を飲まんと順番を待つて居るとき此中には米兵の將校が多くさん居たといふから従て普通なればフィリッピン兵を押退けて米兵が優先權を握る筈のところ一丹投降となつては平等の觀念どころか、彼等米兵には無意識の中に日本軍とフィリッピン軍とは同じ東亞民族であるといふことを自覺してか米兵は頗る遠慮がましい素振りで寧ろフィリッピン兵の優越を認めて居るかの様にさへ見へたと現地通信が報じて居ることは民族的共通の反響を物語るものであらう。

そして之等は英米の物質的壓制に對抗する共通民族の自然的矜持でもある。

甲、民族思想善導上の要諦。

乙、廣地域に亘る戰後經營の困難なることは何れの觀點よりするも覺悟せねばならないことである。

東洋人の東洋といひ東亞新秩序建設といひそれは現實から游離して成り立つものでないことは之又現地通信の報ずるところである。

而かし幸にして東亞共榮圈一帯がお互に東洋人種であるといふ共通の運命は如何にしても拭ひ去ることの出来ない我々の強味であつて其意味で我々の努力によつては之等一帯民族の心からの融和と協力とは決して不可能ではないのである。

殊に英米文明の壓力のみによつて其傲慢さを以て東亞民族を制御し將又輕視し來る根本的錯誤が明確にされて來た今日に於ては東亞民族精神を昂揚することに依つて彼等を舊思想的雰圍氣より容易に脱却させることが出來のである、之が爲には東亞一帯民族としての誇りを昂揚し其反動を強めることである。

谷外相は就任直後新聞記者團の間に對し次の如く述べられて居る。

「從來と變らず共榮圈内獨立諸國の獨立を一層尊重して行くつもりである、弱

い東の諸國諸民族は各々が離れ／＼では立つて行かないものであり、新秩序の建設も協力を要するものであり、ここに諸國の獨立を十分尊重しつつも必然他人行儀的でないところの大家族主義的關係を持つべきものであると思ふ」(九月十八日記事報導)

問、英國は滅亡するか。

答、英國が滅亡することは今更ら起きた問題ではない、英人ヴィヴィアン、グレイ著「英國衰亡史」The Decline and fall of the British Empire に依つて今から三十年前、既に豫言されてゐたのである、同書は今から三十年前、英國は二十世紀に亡びたといふ假想のもとに日本國民敎課書に假記されてヅ氏が執筆した未來記である、同書に依れば英國衰亡は必然なりとし其第一の因は英國民が都市生活に酔ふて人生の本義を忘れたこと、就中快樂を人生の目的としてゐたこと、第二に利己觀が骨頂に達し學問藝術其他一切の趣味が頽廢したこと。

第三に崇高なる信仰と義に燃へる不滅の愛がなくなつたこと。

第四教育が形式化し實生活と懸け離れたこと。

其他勞働の輕視、政治の腐敗情落等が、指摘されてあるがこのことなるや其後の爲政者に於てさへ諷刺を與へて居るのである、曾てマクドナルドは其就任の演説の中に次の如く述べて居るのである。

「我々の生存中に此大英帝國が崩壊してしまふことがあるかも知れぬ、英國が今の政治の方法を改善し英國の政治家がゴルフ宴會にうつつを抜かすことを止め國民をして正業に奮勵せしめ英國の國防を充實し、一時を糊塗して喰延しをするが如き陋習を悉く廢止するに非ざれば英帝國の崩壊は臆て踵クレスを接して至るであらう、時は今刻々と進んでゐる警鐘ケイドルの鳴るとき既に遲牛を發見するであらう」と之に對し英國の財界言論界は擧つて大攻撃をしたといふことである。

更に英國滅亡の、外形を捉へて東日副主事楠山義太郎氏は過般「英帝國必滅論」と題す報導論文に英國衰亡の特異性の第一は國際的地位の弱體であり、其第二は內面的弱體化就中經濟機構の弱體化、第三は英聯邦の離反であつて、而かも之等は前

大戦來に於て必然的に運命づけられてゐた兆であつたと述べてゐる。

今英國滅亡の必然性が何に原因して居るかを右兩氏の説を假りて梗概すれば次の通りである。

※：ウ氏著「英國衰亡史」要旨

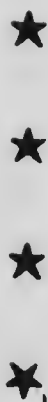
國民が凋落して行く第一の徴は暗憊たる都市の重苦るしい光輝の中で生きたがつて農村の靜かな喜びを棄てたがるときに現はれるローマがそれであつた、その結果は國外移住を嫌ひだして崇高な神をも自己をも信ぜないやうになつたこれと同時に心身が脆弱化して他力本願となつた、二十世紀のイギリスは、そうであつた。

彼等は如何に生きるべきかを教はるには簡易の生活を説いたトルストイ、ワグナー、ソーロウのもとに行かねばならなかつた、いかに死すべきかを學ぶには日本人の處へ來らねばならなかつた。



ローマ人ギボンはローマ衰亡の罪禍を指摘して「快樂を以て人生の目的とし贅澤なる宴會を好みそして増へ行く無責任なる大資本家は巨額の金を費消し親から受けついだ安逸を社會公共の爲さざげることとをさつぱりしなかつた、一方まちなれた群衆は未明より劇場に押寄せ場席をとるため詰めかけた」と言つてゐるがイギリス人に對しても同じことが言へるだらう、彼等はシエクスピアが解らず其他偉大な劇曲作家らも解らぬくせに芝居と來ては目がなかつた……………

ギボンは又「詩人の名は殆んど忘れられ雄辯家の名は詭辯家に壓せられた批評家や編輯者が學問の面目を瞑まして天才の凋落について趣味の頽廢が起つた」と云つたが、それは又フランス文學中の劣惡な分子のつまらぬ模倣がイギリスの藝術と生活の大部分に行き亘つていたかに見へるこれは當時の解放されたイギリス婦人が自由を國家の目的よりも私益の爲に利用したと亡ふ事實が一因となつてゐた又男は「デカダン」たることをもつて誇りとしてゐた。

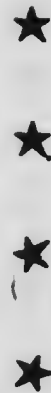


次に中世紀のイギリス人をして三、四百年にもわたる歲月をかけて一大伽藍を造營せしめた沈着崇高な信仰は何處へ行つたか？

義に燃える不滅の愛は何處へ行つたか？

これらはすべて消へ去つてそれとともに德行も永久に跡を絶つた……………德行こそは同胞を信服さして確かな勝利へと進んで行かせる所以のものであるに……………幾百千といふ富者が年々入る配當金の一部でも投げ出して使用人の勤務時間の輕減に使ふなり貧困者に仕事を授けるに使ふなりすることなど夢にも思はずにゐてそれでゐて社會問題を喋々したり、滅私奉公の美しさを説く數限りない氣とり本をよんだりしてゐた而かも其中で深慮を以て其時代の大問題を敢然とり組まうとしたものは殆んどゐなかつた……………ギボンがローマにあつて多くの邪教のことを説いてゐるやうな數多の迷信がイギリス人の生活に盛つてゐたといふことが解つた、ロンドンの社交界には聖典による精神療法を説く「クリスチャンサイエンス」と鑑定術が大いに廣まつてゐた、實證論と不吉論はたくさんの社會主義者

や職工にその力を弱める信條をさづけ、文學氣取の富裕なデイレッタントはオウ
マト、カイヤームの悲しい哲學の中に隠れ家を求めてゐた、其信仰たるや「空し
く會堂に費した時を酒場に償はう」といふ一言につきるのだ……………



ミルトンが二世紀前にかいたことが本當になつたのだ、ところが寺院も各宗教
の指導者も盲らになつてしまつてゐたのだからたまらない、寺院が眠つてゐるう
ちに國民が亡びてしまつた、尙教育の眞の目的は善良な國民をつくること、次に
己れの生活を營んで行かせるやうな智識を少年にさづけるにあるに拘らず二十世
紀のイギリスでは宗教的な驕の上で爭論が行はれそして誰もかもが隣りの人の子
の行く公私の國民學校で教はることを一生懸命に病んだ而かも誰一人として子供
が家庭で兩親の口からと行ひからでなければ學べないある人生についての神聖な
眞理があるといふことを悟つてゐなかつた、少年は其母親を尊敬することを學ば
ずして女性を本能的に尊重する念をもつて社會に出られるだらうか？國民を教育

するに最上の學校は家庭であつて教室ではない、家庭の兩親がエダヤの王たちの名簿や使徒の年代記などに對するのではなく、新約聖書の單純な説話に對しての敬神と虔ましい愛でもつて其子を教育する責任を果すのは子の一生涯の幸福に賭けをするのだ……又實際的な方面に眼を轉じて見るにイギリス國民が教育に費した金額の莫大なことと其金額に對して何等の見るべき功績も擧げてゐなかつた次第がかゝれてゐるのを見ると全く馬鹿げたぐらいた。

學校兒童の大部分は長して土地を耕すか手藝にしたがうかするのだと思はれるのに農業も工作も機械の運轉もそれから實地の産業に關係のある、何とひとつの事柄としても教へられない、そしてオックスフォード大學、ケイムブリッジ大學出の青年が視學になつて農工業労働者の教育を監督するその結果いくらも居ない畑作りが仕事に眞の趣味を失ひ又熟練した職人であつた筈の幾百萬といふ人々の願望が新聞賣子になるか片手間仕事に集中されるやうになつた。

勞働を輕視するに至つた結果は多くの青年が海を捨て土地を捨て手工を捨てて

商業に走ることになつたのでつひには競争が烈しく起つて商業上の不正が廣まり取引が停滯不振に陥ることになつてしまつた……………

女が乳を哺まなくなつたりするやうな文明では間違つてゐる大嘘だ……………又教育のあるイギリス人の多くがどの様にアテネの民主政治は煽動政治家の事によつて滅びたといふことを讀んで知つてもやがてイギリスの未來の壊滅を誘ふ重大原因となつて行くものが自國の政治的な地方自治的な且又勞働階級的と煽動家だといふことには思ひもつかないのである。

結局イギリスの全上流人士には彼のジドニスミスをして「わたくしは如何なる政黨が政權を握つた處が意に介しないただ公義と常識を熱愛してゐるのみである」と叫ばしめた様な精神がなくなつてゐたのだ。

※楠山義太郎氏「英帝國必滅論」要旨

英帝國は衰亡避くべからざる運命にある、茲に第二次歐洲戦争に於ける英帝國の持つ呪はれたる特異性がある、然らば其特異性とは何か。

其第一は英帝國の國際的地位の弱體化である、これは前大戰時既に歴然たる兆候となつてゐる、即ち一九二二年のワシントン條約一九三〇年のロンドン條約之等海軍軍縮條約を通じて英國永年の傳統たる二國海軍標準政策を放棄した、ここに英國の世界制覇の大破綻が兆して居る、何故ならば英國は世界的植民帝國である其性質上海軍兵力の五分の三を東洋に割いて西太平洋上に對日均等海軍勢力を常駐せしめ得ない事情が存じてゐるからである、況んやワシントン軍縮條約の成立と同時に米國に氣兼ねて英帝國東洋政策の根幹であつた日英同盟を廢棄してしまつたことは恰かも日本といふ虎を野に放つたが如き觀である。

呪はれたる特異性の第二は帝國組織の內面的弱體化である、之畢竟前大戰後英國が國家的疲勞に陥つたことに外ならないのである、石炭文明の終焉もさることながら最も重視すべきは經濟機構の弱化であつて、戰後尨大なる戰費補填と對米戰債等に伴ふて産業不振失業問題の重大化更に世界市場への脅威等もあつた。英國が巧みなる惡宣傳に依り「粗製濫造の日本商品の洪水化」を叫んだのも此時である。

かくして英國永年自慢の自由貿易は遂に經濟的鎖國主義に還元したこれ英帝國滅亡の主因を爲す自殺政策であつた、これに加へ日英戦争こそは英國にとつて致命的であつた、日本が立つたばかりに東亞で香港や新嘉坡やビルマ等々の植民地や主要軍事基地を喪失した今日英國を表式せば（海峽國）——（南洋羣島及南洋羣島）——何が残るかである。

殊に英聯邦の所領は面積千三百萬平方マイルの尨大なもので地球の約五分の一を占め總人口五億中有色人種は四億二千餘萬の多きに達し、従て威令行はれず其離反必至は先轉的に約束されて居たのである、故にインド、濠洲、カナダ、南阿等は英國の衰退に伴ふて英本國からの離反は又必趨であらねばならぬ。翻て現實は如何といふに喘ぐ食糧逆封鎖に加へ永年の對米媚態外交に依り一人頼める米國との共同制覇も夢と消へんと、正しく半身不隨の英國である。

かくして三百年の光榮ある大英帝國は今大歐洲戦争を一期に歴史上から抹殺されやうとする前夜である。

問、フランスは何故敗れたか。

答、今次獨、佛戦争時フランスの没落の運命決するやベタン元帥は曰く。

「我々は敗戦の教訓を學ばねばならないフランスは前大戦時ドイツに大勝以來
(イ)總ての國民は享樂の精神の爲に犠牲の精神を滅してしまつた。

(ロ)他人の爲より自分の爲ばかりをはかつた。

(ハ)努力することを惜んで怠けた。

敗戦の原因は其處にあつたと指摘してゐる。

※：アンドレス、シモーヌは「余は糺彈す」の同人の著書に次のことを述べてゐる。

「フランスの敗因に就いては或はマチノラインの要塞を過信したとか或はフランス參謀本部が近代戦の戦術に氣がつかなくなつたと言ふが併しそれが惨敗の原因ではなかつた。

それはフランスの軍部も政治家も共に社會的動靜の洞察を誤つた結果に外ならない。

戦前既にフランスはフランス人の信條たる自由主義と民主々義の行詰りに氣付かなかつた。

特に彼の「二百家族」……フランス銀行の株主中實權を握る二百人はフランス銀行の約十六人の重役連と一聯となり政府を驅使し國策を左右し政府軍部を情落到に導いたのだ、一九三三年ヒットラーが政權を執るや此重役連はヒットラーの手並にすつかり魅せられフランスをファッショ、ナチ型に改造せんとさへ決心した程でフランスの敗北は戦前すでに兆して居た。

開戦と同時にフランスの凡ゆる社會と階級は對立し分裂した其原因は戦争其ものであり、戦争に導く諸情勢であつた、そして全部のフランス人は「なぜ戦争するか」について疑惑を抱いた従て一人だに戦争氣分に興奮するものが、なかつた政府は「今こそ全國民が一致團結すべき秋である」と絶叫しながら政府自體が分裂してゐた。

新聞は一面にフランス國民の勇氣を讃へながら二面では相變らず昔ながらの不

平や論争や議論を取扱つて居た、デモクラシーの爲の戦争だのスローガンはデモクラシー其ものが裏切りや不名譽と握手して居ることを知つてゐるフランス國民の半分には無力であつた。

又ヒットラー防衛の旗印もヒットラーが共產主義の防衛であると考へてゐる國民の半分には無力であつた、而かもナチスの宣傳は戦前戦争時を通じ此處を抜けて目なく利用した。

それといふのもフランス國家組織の中へナチスの第五列が喰ひ込んでゐたかである、だから戦争が始まつたときにはヒットラーはすでにフランスの心臓の中へ喰ひ込んでゐた、フランスは外部からでなく内部から崩壊したのである、更に戦争段階に入つてから五期に區分して述べれば次の如きである。

第一期、

(イ) ヒットラーは「余はフランス國民に戦つて居るのでもなく又フランスを攻撃する考へもない」と演説したがドイツの放送もフランス國內のナチ、スパイもこれ

をくり返へした、これが爲フランス國民に樂觀的印象を與へ、フランス人中には「ドイツはフランス人だけは非道なことはやりません」といふものが續出した、英國の應援兵が戦線に姿を見せなかつたのを利用したドイツの第五列は「英國兵は一體何處に居るのだ」とブツブツ不平播きの宣傳をした。

第二期、

(イ) フランス内部のヒットラー主義者の攻勢は高調しフランス人心の奥深く腐蝕した、そしてナチ宣傳の論調は次の如く變化した。

「何故この戦争をつづけるのか？ ポーランドはもう存在しないではないか共產主義が歐洲に巨歩を印してポーランドの半分を占領し、バルト三國にはソ聯の軍隊が進駐して居るではないか、もし今にして之を制止しなければ萬事休すると思ひがくるかも知れない、ソ聯の進撃を阻止するものはヒットラーを措いて他にない、だからこそヒットラーと協調することが絶體に必要なのだ。

これが爲、フランス新聞は一般にソ聯を平和の最大の敵と看做するやうになつ

た、パリーの會議に出席中の英國議員は

「此頃フランス新聞をよむと丸でフランスがソ聯と戦争してゐてドイツとは單に仲が悪いだけのやうな印象を受ける」

と感懷をもらしたといふ。

(ロ) ドイツゲツベルスの仕業と思はれる「神經戰術」に依る攻撃宣傳に踊らされた、

フランス國內には流言蜚語が間斷なく流布され、緊張せるもヒットラーの攻撃がほんとうに開始されるときにはそれは不幸にして不意打に行はれるのだつた、

(ハ) 議員中にはフランス軍の戦果の擧らないのを憂慮するものもあり或は之を喜ぶ

和平論者もあつた、フランス最大のル、ブライ、パリジアン新聞社の如きもナチスとの協調可能を取上げた。

第三期、

(イ) ダラジエはフランス國內の對立と分裂を助長した罪を負ひ辭職したそしてポー
ル、レイノーが後を繼いだ。

(ロ)

レイノーは人間的、社會的様相を把握し得ない人間であつてフランスが必要としてゐる・眞に國民の信賴し得る人・ではなかつた。

彼の愛人ド、ポルトの知友ポール、ボードアンはムツソリーニ崇拜家であつた、そして後で彼は其ボードアンを愛人にした。

第四期、第五期、

(イ)

レイノーはフランス勝利を過信し樂觀論を述べた。

(ロ)

レイノーはヒットラーに對抗さす爲ヒットラー主義者なる左翼共和黨首ルイマランと「鐵十字團」の副總裁ジャン、イバルネガレーを入閣させた。

これによつて恐怖と凶事の前兆かの如くバリーは一瞬にして變つたそれから間もなくヒットラーの軍隊は佛國へ進入した。

(ハ)

フランコ將軍と仲の良いペタンを副總理として入閣さすを始めとし國防相、外相、内相等にも敵の第五列と目せられるものを入れた。

これが爲聯合軍は眞二つに連絡を割かれてしまつた。

(ニ) 流言蜚語は燎原の火の如くに擴まり各新聞は「第五列―第五列と戦へ―」と金^{カネ}

切聲^{キリゴエ}を上げ出した内相マンデルは遂にバリーのサロンと新聞雜誌社からヒット

ラーのスパイを一掃しやうと企てた。

(ホ) 凄まじい空襲におびへて數十萬の人間が避難しバリーは空つばになつた、政府も逃げ出した。

さるにしてもナチスドイツは實に詳細なるフランス國內の情報を入手して居たことは全く驚くべき事實であつた、就中フランス没落に重大なる役割を演じたのは議會と新聞の墜落であつた、これを列舉すれば。

(イ)(ロ) 新聞記者は外務省や大藏省で聞き込んだ情報を彼に賣つた。

議員の中には兵役の免除を斡旋するものも出した、クレマンソーは嘗て「フランスの議員は議論とノートをとる他は能無しだ」と辛辣な批評を下した。

(ハ) 軍情報局諜報員はナチスの手先となつたばかりでなく地位を利用して脅喝や不正取引をやつた。

國防保安部官吏も機密を通じてゐることが發見された。

軍の高官連は大會社と關係をつけるために血眼となつた……………

かくてフランスはヒットラーの爲に敗れたのではないそれは政府部門や大産業や國家行政組織や軍部と極めて有力なる關聯を持つて居た第五列によつて國の内部から破壊された。

※…ベルトラン・ド、ジウヴネルは同人著の「若き理念の勝利」の中でフランス大敗北の一つとして次のことを擧げてゐる。

「私的生活が我々から我々の軍隊を奪つた」と題し・大戰前の「宣言書」に於て全體の利益が個人の利益に優先しなければならぬとフランス人に繰り返へし言ふのは徒な努力であつた、若しドイツ、イタリー、ロシアに於て國民が個人の努力は集團の爲にあることを承認してゐたとすればそれはその國々が貧窮の經驗を味つて居たからであつた・と述べ。

自國フランスが全體主義に負けたことを喝破して居る。

問、これからの世界はどうなるか。

答、▲是からの世界は歐洲圈、大東亞圈、亞米利加圈といふやうな數個の國家群が構成され新しい國際秩序が出来てくる（奥村情報局長）

▲幾百年かの後世界は三つの大きな文化ブロックが生ずる其一つはアングロサクソンを首班とする米英的文化であり、他の一つは日本を盟主とする大東亞文化であり、今一つはゲルマン民族に屬するナチス文化である、そして其時に於ける米英の文化は物質文化でありナチスの文化は物心併用の文化であり獨り我大東亞文化のみが物心一如の境を行く世界最高の太陽文化とも稱すべきものであらねばならぬ、

（大本營陸軍報導部平櫛少佐）

防 諜 篇

問、防諜とは何ぞや。

答、防諜とは秘密戦術に依る敵性行爲を防衛することである、言ひ換ゆれば外國の秘密戦に對し國家を防衛する行爲の總稱である、そして防諜には特に日本人たるの自覺に徹することが根本的に要請されるのである、從て防諜を狭く解し單に秘密を洩らさぬことだとか又はスパイとの對抗だとかの如く小手先の技術の様に考へることは防諜の片務的解釋であつて、防諜の本質は日本人たるの悟入を先決とするのである、茲に於て國民の平素よりの自肅自戒の精神訓練が必要とされる理である。

日本人でありながら日本人たるの自覺に徹することが何故に必要かと言へば明治維新以來拜外思想とか恐英米思想とかが侵入し一般的に國民思想が歐米化して其結果眞の日本人と外國人との限界が忘れかけられてゐた觀があるので從て此歐米化せ

る國民思想と純日本的なものとの区別がなくなり、敬の千載に名り易いからである。

る國民思想を純日本的なものにせざる限り、敵の奸策に陥り易いからである。

・蓋し秘密戰の内容たる諜報も宣傳も謀略も歸する處相手の中に味方の所謂第五列や六列が居なければ何も出来ないものであつて之を換言すれば味方といふ畑さへなければ諜略とか宣傳とかの種子を撒いたところで育たないからである、從て其畑を掘り起して日本化して置いてどんな種子が撒かれやうとも育たぬ様にせねばならぬことが極めて必要緊切であるのである。

防諜が戰時平時を問はず必要なことはここに言ふ迄もない。

甲、防諜の範圍如何。

乙、防諜の範圍はスパイの及ぶ範圍である。

而してスパイとは廣く國家機密の漏洩を目的とするものなるが故に從て其の機密防止の範圍は軍事、外交、經濟、産業資源、一般國情等凡そ國力判定の基礎となる全分野に亘つてゐるのである。

此點は昔のスパイが専ら軍事スパイに限られ從つて軍事機密以外のものに對し

ては防諜の必要がなかつたことと趣きを異にするのである。

甲、防諜の種類。

乙、防諜は通常「積極防諜」と「消極防諜」とに區別されてゐる。

而して積極防諜とは、スパイ活動を検査檢舉することであつて其任務は官憲の主擔に屬し一名之を官防諜とも言はれて居るのである。

消極防諜とは、之を自體防諜とも稱しスパイ活動を警戒防止することであつて、前者の積極防諜を官防諜と謂ふに對し此れは國民防諜と謂はれてゐるのである。

國民防諜の任務は單に自體の防諜だけに止まらず進んで所謂官防諜に協力することが半面の任務となつてゐるのである。

然らば今日何故國民防諜が強調されるかと言へばそれはスパイの狙ふ對象は國民であつて、畢竟國民防諜の完璧が期せられるに於ては一切のスパイ活動が效を奏せぬからである、茲に於て一億國民は防諜の主體であると共に防諜戰士でなければならぬのである。

問、防諜の重要性。

答、近代的秘密戦は極めて巧妙にして或は公然合法的に或は隱密非合法的に而かも其舉措に至つては變幻自在千變萬化加ふるにスパイ一流の精密な頭腦と機智と獨創を多岐にわたつて驅使し其錯綜たる端睨^{タンゲイ}すべからざる秘幕を藏し、かくて各國は自國防衛の見地より競ふて攻防の秘策を放つのである。

「千丈の堤も蟻の一穴から」とか全くスパイは蟻螻の如きもので之を未前に防げば事無きも然らざらんか如何なる大厦も倒壊し如何程強靱なる堤防も崩壊するに至るのである。

「スパイ一人の力が數個師團に優る」と謂はるる所以も此處にある。

防諜とは即ち斯るスパイ活動を防止撃滅することに外ならない。

かつてバルフォアは「機密探偵の第一の要素は秘密の保持である」と言つた、全く其通りで勝負は何に限らず敵に味方の持ち札を見られてはもうおしまひも同然だ、從て勝つ爲には絶對にこちらの懷中を見せてはならないのである。

問、國民防諜の心構へ。

答、之を一口に言へば「國民たるの自覺を堅持する」ことに盡きるのであるが凡庸のたぐひ動々もすれば常軌を逸し勝ちなのである、どんなにすればよいか？ 曰く徒なお喋べりを止め不平を言はず、流言に迷はず、あはてず「防諜は我れに一億の戦士あり」の氣構へをすることで充分である。

「秘密でかたつた秘密がもれる」と言はれて居る様に「君だから話すがこれは内所だが」といふが如きことは最も嚴禁せねばならぬことである、田中情報部長が「スパイの狙ふ秘密は別に參謀本部の金庫の中にあるのではなく實際われわれの身の廻りにある」と言はれて居ることは如上の消息を風刺されてゐるのだと思ふ。

だが此處で注意すべきことは防諜を窮屈に解し過ぎて、秘密を守ることだけに専念の餘り神經過敏となつたり脅へたり或はお互に猜疑心をもつといふやうな暗い感じを抱くに至らんかそれこそ「防諜」は「暴懲」の心中と化し其結果は總力戰の基底たる明朗潑刺たる氣鋭を蔽ひ國民總和は得て望まれない本末顛倒の逆効果を齎すこ

とこなるのであつて、それでは方策の本義に反することとなるのである、新聞氏の報

とになるのであつて、それでは防諜の本義に戻ることになるのである、新聞紙の報ずるところによれば米國は敗戦を糊塗し艦船が盛んに撃沈されるのは第五列の仕業なりとし防諜宣傳に躍起となつて「片言雙語で船は沈む」とか「不用意の一言から戦争に敗ける」などと泣き言みたやうなビラを無數にばら撒き飲食店のナフキンの下やホテルの枕の下にまで入れるといふ哀れな狂態振りだとかなるが、我々はか様な狂態振りが果して防諜の有効策かを疑ふと共に、又かくまでされねば防諜觀念が徹底しないといふ不眞面目な國民には決してなりたくないのは勿論、斯る不手際なる結果を齎すやうな間隙をつくつてもならないのである。

念の爲次に國民防諜六訓を紹介する。

(一) 日本人たるの自覺こそ防諜の根本である。

(二) 國民の一人一人が防諜戰士たれ。

(三) 言葉を慎しみ機密を洩すな。

(四) 流言に迷ふなデマに踊るな。

(五) 不平不満は利敵行爲。

(六) 職場を嚴守せよ。

問、秘密戦と何ぞや。

答、秘密戦が武力以外の戦術であることは「形而上戦とは何ぞや」に於て既述の通りである、要するに斯る秘密戦術に依り相手國を敗戦に導き能ふべく崩壊させやうとするのである、即ち凡ゆる裏面的策謀に依つて、相手國の政治勢力や武力の均衡を破つたり或は政治力の對立抗爭を醸生又は激烈ならしめ其他組織の矛盾に乗じて社會思想の攪亂を企圖したり、巧妙なる宣傳に依つて相手國に内訌を生ぜしめて敗戦に導き我れを有利に展開する等のことがなされるのであつて、ときとしては此種策謀が武力戦以上の成果を齎すことさへあるは前歐洲戦争時ドイツの敗戦史が雄辯に物語つてゐるのである。

一例を擧ぐれば前歐洲戦争時聯合國側は其實ドイツに「敗北の平和」を強制しやうと考へたに拘らず之を擬装して「ドイツさへ無賠償無併合の和解の平和」を決意

すれば本來平和的なる聯合國は何時にても之に賛成し戦争を止めるであらうと嘘の宣傳したところ、はからずも此恐るべき聯合國側の陰謀をドイツ民主々義者國際主義者は信じてしまった。そしてドイツ敗戦のキツカケが此處にあつたことは後車の戒めとすべきことである。

甲、秘密戦の種類。

乙、秘密戦術の内容は諜報、宣傳、謀略等である。而して「諜報」は相手國の國力資源の各般の分野にわたる情報を蒐集又は提供する等の役割を有しこれによつて武力戦乃至武力戦以外の宣傳戦とか謀略戦の計畫を樹てるのが通態となつてゐるのである。

「宣傳」は敵國の信用を失墜せしめ又は敵國內の人心を動搖せしむる等の爲、敵國乃至第三國に對して爲される傳播行爲であつて其役割は廣汎重大である。

「謀略」は策謀をめぐらして相手國に直接的なる害を與へるのであつて之には、反戦、軍民間離、怠業、罷業等の誘發を目的とする「思想謀略」と軍需工場水道

等の爆破乃至放火其他細菌撒布等の如き物的・人的破滅を目的とする「破壊謀略」とがある。就中思想謀略は最も警戒を要するものである。

問、諜報には如何なる手段を用ふるか。

答、諜報には合法手段と非合法手段とがある。

(一) 合法手段。

例へば國家の有力な人士に近づきいろいろ世間話をしつつ情報を蒐集する所謂假面の紳士スパイと謂はれて居るものが此類である。

或は又新聞雜誌等の刊行物より情報を蒐集或は自ら新聞雜誌を發行し商賣に假託して情報を得ることもあり、其他技術指導の名目を利用し工場會社等の雇員となることに依つて生産資材状況を内査することもあり、甚だしきは學校教師たることを奇貨とし學生より情報を入手することさへあるのである。而して敵性外交官等は各種諜報網を動員して此種情報の蒐集に奔走するのである。

(二) 非合法手段。

例へば工場の技師や職工を買収して秘密を探るとか又行商や旅行を装ふて視察内偵の結果を諜報するとか或は高臺展望の策をめぐらし軍資輸送の統計を蒐集する等のこともある、最近に檢舉された國際諜報團の如きは朝野の上層部に喰ひ入つて斯種手段によつて情報入手してゐたのである。

甲、開戦に至れば敵國人は退去するから諜報は杜絶するのではないか。

乙、開戦に依て英米人が國內に居ないからとて安心することは出来ぬ、何故かと言へば第三國人は居るからである、而かも英國人の從來に於けるやり方よりすれば第三國人を自由自在に驅使し得るところに特色があつたのである、例のゾルゲ事件は其好適例ではないか、殊に第三國人と雖も此處幾年かを經て敵國側と聯合するやも計り知れず狡猾なる英國なればこふした處に彼獨特の策手を残して居るならんことは豫想に難くない。

又諜報者を單に外國人のみなりとは斷定出來ず萬一現れるかも知れない賣國奴をも、一應豫想して慢然と樂觀してはならぬのである、特に注意を要するは「敵

性華僑」である。

本年四月ジャバ全土に亘る敵性華僑百八十七名が一網打盡に我軍當局に檢舉されたことは新聞紙報導の通りで、彼等は重慶政權に依存し財力を提供してゐたのであつてこのことは華僑が東亞の廣域に散在することを照顧すれば思ひ半ばに過ぎるものありて特に注意を要することである。

問、外國スパイ網の實相。

答、外國スパイ網は(イ)國內に諜報網の中核體を有する場合と(ロ)外國に諜報網の中核體を有する場合とがある、而して既に新聞紙によつて報導されたるシンガポールに根據をもつた英國極東諜報部から日本に特派されて活躍してゐたスパイ等は後者に屬するのである。

然かし派生的現實の問題より以上に再考を要することだとされて居ることは明治維新以來に於ける國民思想の歐米化である、それとりも直さず外國スパイ網なのであつた、宗教的に教學的に經濟的に怖るべき彼等の魔手は張られたのであることを

我等は今更ら知るのである、卑近な例よりするも、キリスト教の日離學校で白紙時代の子供にカードを與へたり又ミツシヨンスクールで教師と生徒母校卒業生の繋がりをも特に深がらしめ結束を固めること等によつて國民思想否定の術策とし、又教學的にも諸教科書にジョン、メリー式を取込み日本的なる太郎、次郎式を拂拭することにより、思想の變化を企圖し、經濟的には會社、銀行をして、外國資本に依存せしめ政治的には惡平等のデモクラシー化を付植する等々牧舉に違がないのである、これこそ彼等の根強い術策に依るスパイ網なのであつた、かくて日本の歴史は忘れかけられ而かも未だ斯の種英米思想は變幻として部分的に残澤するのである、王陽明が「山中の賊は去るは易く心中の賊は去るは難し」と言へるが如く浸透せる英米的思想の拂拭は容易でないのである。

問、宣傳戰術の種類並宣傳方法。

答、宣傳戰術には(イ)敵國民の士氣を沮喪せしむるが爲の「敗戰主義宣傳」(ロ)敵國內に内部抗爭を惹起せしむる「分解的宣傳」(ハ)聯合國乃至植民地の離間或は軍官民の離

間を策する「離間宣傳」(ニ)平和愛好を装ひ戰意を喪失せしむる「親睦宣傳」(ホ)敵國に恐威を抱かしむる「攻撃宣傳」其他怠業、罷業の煽動を策する宣傳、又は反戰氣運の讓生の爲にする宣傳等々ある。

而して宣傳方法としてはラジオ、ビラ、小冊子、手紙等の外戰線に於ては擴聲器を用ふることもあり又一人の口から他の一人の耳に「之は内所だ」と囁く「囁き戰術」といふものもある。

一口に宣傳といふが之程複雑なる内容を有するものはない事實の宣傳もあればデマ宣傳もあつて、更に其内容は多岐である、從て宣傳戰術といふものは宣傳の對象、宣傳の時期等々の諸要素而かも絶へず變化して行く其等諸要素の合理化判斷決定等に基づき、種々なる様相を呈するのである。

宣傳に關し直感し又留意すべきことは「噂」の擴大である特に横への擴大は、最も警戒を要すべきである。

これに就て一つの實例を引用すれば、

ドイツ軍がベルギーのアントワープを占領したとき、ドイツのケルン・ツアイツング紙は「アントワープ陥落の報が達した時教會の鐘が鳴つた」と報じた、ところがフランスのマタン紙はこれに手加減を加へ「ケルン・ツアイツング紙の報導に依ればアントワープの各寺院は同市の陥落と同時にドイツ軍の命令によつて鐘を鳴らされた」と書き變へた、更に之がロンドンタイムス紙に載せられると「マタン紙がケルン市から受取つた報導によればアントワープ陥落の際鐘を撞くことを拒んだベルギーの僧侶達はドイツ軍の爲捕縛された」となり、イタリーに入つてコリエレ・デラ・セル紙に於ては「タイムス紙がパリー經由ケルンより入手した報導によればアントワープ陥落の際鐘を撞くことを拒んだ不幸なベルギーの僧侶達は手枷足枷ナカセアシカセの苛酷な勞役を課せられた」となつて再びパリーに戻つた時、マタン紙は「コリエレ・デラ・セラ紙がロンドン經由ケルン市より得た情報によればアントワープを占領した野蠻な征服者は勇敢にも鐘を撞くことを拒んだベルギーの僧侶達を生きながら頭を逆さにして、足を鐘鐸に結びつけ處罰したことが確認された」となつて立派にド

イッ軍の慘虐行爲を證明する事實とされるに至つたとのことである。

か様な理で「噂」の擴大は同時に其心理的に與ふる影響が又極めて大で秘密戰中宣傳戰術の威力は輕視出來ないのである。

ドイツ陸軍省のテルジーベル大佐は、

「戰爭の勝利は宣傳戰がどの程度迄行はれたかといふことに依存する」

と言はれたそうだが至言だと思ふ、今次歐洲大戰に於ける英米宣傳戰の基本理念は「獨逸國民をヒットラーを中心とする指導者から引離す」ことにあると傳へられてゐることを特に我等は注意すべきである、殊に英國は事實を捏造するデマ宣傳の王であれば正に油斷大敵である。

而して宣傳戰術に依る狙ひの焦點は何處にあるかと言へば相手國民の戰意喪失が主眼となつて居るやうである、而かもこれらのことは如何に相手國が強よければとて不可能でないのである、之れ蓋し既に武力に依り叩きつけられた英米なれば萬一にも日本の國土を占領するといふことは絶對不可能であるが而かし、彼等の奸策に

より我が國民思想を惑亂し占領と同様な効果を狙ふことは絶對的不可能でないからである、これについては前歐洲戰爭時に於けるドイツ敗戰の事例が明確に訓へてくれるのである、即ち當時に於ける聯合國の宣傳はこうであつたのである。

「ドイツ指導者が間違つた侵略主義的な考へ方が戰爭を挑んだ爲ドイツ國民中には父を失つた子供、子供をとられた老父母、夫に別れた妻、一家の柱石をなくした家族等々が路頭に迷ひそして國民は毎日の食料さへ不自由し榮養不良に陥つてゐる。ドイツが此間違つた政策を反省しない以上戰爭はつづき聯合國は益々經濟封鎖を強化するからドイツ國民はしまひには餓死の運命を免れない、ドイツの國民よ、カイザーの政策に反對せよ、そして民主的な革命に成功して平和的な政策を採用せよ」

との宣傳にドイツ國民は乗じ遂に敗戰を喫したのではないか。

甲、デマ流言に依る宣傳の種々相。

乙、宣傳上有効視されて居る方法はデマ、流言である。

凡そ人間の本能は何か秘密なことを知りたがるもので而かも誇らしげに人に話したくなる、このデマ流言の傳はる速さ廣さは想像に餘るものがある、デマ流言に就て我々が先づ注意喚起せねばならぬことは、其デマ流言が如何なる方法によつて行はれるか、即ちデマ流言の温床の正體如何である。

ボンコンビーは「戦時の虚偽」といふ本にバリーの「新聞の家」を次の如く批評してゐるとかなる。

「地下室には各種の印刷機械が据へられ、地階には大きな會議室がある、そこにはいかめしい、人々が右往左往する、トラックが着く、立派な自動車が停る、その二百に足る部屋は何れも塹壕から遠ざかる程勇氣の出る戦争狂の英雄達の事務室であり、應接室である、その地下室から硝子屋根の五階迄の全部がとりもなばさプロバカンダの一體である、一番上の硝子屋根の部屋は寫眞繪畫室で、そこには木製の斬られた人の胴體や、腕がころがつて居り、眼をくり抜かれた人形などが立つてゐる、部屋の片隅には、グランド・オペラの背景畫家が爆破されたフラ

ンスやベルギートの寺院、發^アかれた墓、荒廢した村落などの贋^ニせ寫眞の原畫を描いてゐる、これらの寫眞や繪畫は言ふまでもなく、何れもプロバガンダの目的のため全地球上の民家に對してドイツ軍の殘虐に關するつきとめ得ない證據として送り出されたのである」

か様な方法が前歐洲戰爭に於ける聯合國側のやり方であつた事を先づ知つてかれねばならぬ。次に最近に於けるデマ流言に依る二、三の事例を舉ぐれば、

(イ) 函館の天主教會主任司祭たりしカナダ生れのフィッシャーは青年信者を籠絡して、要塞の秘密を探つたり、臨時召集を種子として動員狀況を探知したり函館入港の海軍艦船の動きを探つたる外「日本軍は支那軍に散々やつつけられてゐる日本の新聞は嘘だ」などと無根の宣傳を爲した、これは銃後人心を攪亂しやうとする思想謀略の一例である。

(ロ) 上海でのデマだが上海の近くで豚の子六匹生れた其六匹の豚は人語を解するとして其豚が曰く「今年の三月になつたら戰爭が南京附近に移り八月になつたら上

海附近に移り十二月になつたら東京に移る」と之は明かに日本軍がだんだん負けて支那から撤退して東京附近で戦争が始まるという意味を含ませた意識的な敗戦主義的デマであつて支那人や英國人はこうしたデス工作が非常にうまいのである。

(ハ) 黄浦江の或廣い河を一晚のうち鼠が二百五十萬匹渡つたそれは浦東に非常に澤山の米が集積されそれを目がけて殺到したのだといふことが上海の支那人間に流布された。之は浦東に米を積むのは日本軍だから従て日本軍が澤山の米を積んだから鼠が渡つたといふことはつまり日本軍が澤山米を買上たそれで上海の米が足りないのだといふことを言はんがための秘匿デマ工作で之等は經濟不安とか生活困難とかの罪を日本軍に押しつけやうとの工作だ。

(ニ) 毛色の變つた惡質デマになると戦争期間を短かく豫言したりして樂觀氣運を醸成長期體制をぐらつかせやうとするものもある。

(ホ) 最近卵が無いのは「味方の聯合軍の方で買占めてしまつたからだ」の如きは聯

合軍間の離間宣傳である。

問、最近に於ける英國の對日諜報宣傳謀略の概況。

答、大東亞戰爭開始直後一齊檢舉に依り白日下に爆された老獪極まる英國の對日諜報宣傳謀略は凡そ左の如きものであつたことを新聞紙は報導してゐる。

(一) 諜報蒐集事項

某國情報員の活動狀況

日本軍の軍事輸送狀況

日蘭會商問題

日米會談に於ける日本の動向

外相辭職の原因

新内閣の性格打診

英米資産凍結並外國貿易閉鎖に依る日本の國內經濟への影響

日本の原料購入貯藏狀況

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)(ト)(チ)

佛印進駐の動向

日本の泰國及南方諸國との關係

華府會議を繞る日本國內各層特に軍部方面の輿論動向

新內閣組織後に於ける對外動向

低物價政策及配給機構の狀況

國民生活必需品其他勞力不足狀況

實業家方面の資材不足に對する動向

(二) 對日宣傳方策(含方針)

(イ) 英國は弱少國の味方として主義的立場に依り才^{ホコ}を採りたる如く強調、殊に物

資精神力共に旺盛不滅にして持久力を有することを誇示

日本をして英國を援助せしむるが如く誘導

(ハ)(ロ) 日獨離間を策し特に日本をして絶對にドイツに軍事的其他物資上の援助を與

へざる如く誘導

(ニ)(ホ)(ヘ)(ト)(チ)(リ)(ヌ) 日本がソ聯と不可侵條約を締結せざる如く誘導

新聞ラジオ雑誌の利用買収を劃策

文化面の宣傳を巧妙にして政客、財政智識層に親英分子の擴大を計る

宣傳物送附人名簿整備(約一萬名)

特殊宣傳方策

陸軍方面に英國の軍事機密に觸れざる限り英陸軍の威力強調

海軍方面には大海軍國の共通點を強調し間接に日英海軍永年の友好關係を想

記せしむる如く努むること

(ル)(ヲ) 資本家、輸出業者には自由經濟自由貿易の勝利を強調利己的魅力を誘發

經濟界には英國資源の偉大性を強調することに依り英國依存を堅持せしむる

こと。

(フ)(カ) 文化人には英米文化的材料を提供し崇英米思想を培養すること

ドイツが歐洲の資源を組織化するに失敗せりと宣傳すること

以上は耳元に囁く方法を用ひ一見宣傳と見へざる如く行ふ。

(三) 對日謀略宣傳

(イ) 日獨離間

昭和十五年七月一日「日本に於けるドイツ第五列部隊」と題し日本は現在世界で最もドイツ第五列が盛んに活動して居る國である、第五列は各省の深部にまで喰ひ込み政治、外交問題、軍事をも干渉してゐるのだ日本人は凡ゆるドイツの惡辣極まる第五列工作を防止し得る素質を備へてゐない。

(ロ) 輿論攪亂

在日女流記者ジャバン、ニユース、ウィーク社A.Gを懷柔利用日米交渉を繞り米英兩國を有利に誘導する如く編輯指導。

(ハ) 宣教師の活動

本職たる宣教師は第二義的としジャバン、タイムス紙を利用其宗教的立場よりドイツを誹謗しドイツの宗教迫害の状況を誇大に論述又一面信者を通じ反獨

親英思想の誘導に努む。

右宣傳謀略手段に對しては宣傳冊子を用ひ此冊子には「ヒットラーは日本民族について語る」と題する冊子の如きは公用行囊を利用して世界各地に送り其處より差出人不明にて我國各方面へ送附し或は桑港より引揚げの龍田丸の船中に「日本政策は獨自か獨示か」と巧みな標題を附し海外日本人憂國聯盟と大書したる長文の對日謀略宣傳冊子を秘かに積み込みたることもあつたといふ。

其他新聞ラジオを利用親獨親英を探り或は日本語堪能なる英人教師をして純文化放送の申込の猛運動をなさしめる等言語に絶する術策を施してゐた。

殊に其手先となつてゐたものの中には親英米日本人就中上層人物等が介在し其範圍は實に廣汎多角的であつたといふ。

問、第五列とは何ぞや。

答、組織的集團的諜報網のことを「第五列」又は「第五部隊」と言はれてゐる、而かし最近に於ける第五列の活動は種々雜多で逆宣傳とか又は細菌撒布とか産業經濟組

織の破壊とか要人暗殺等々謀略部面の任務をも擔當し而かも其活動範圍は國內外に亘る場合もあるので、一名「國際的破壊者」とも呼ばれてゐる。

第五列が高度的組織へ變化を遂げたのは一九三〇年頃からでそして今次世界戦争をめぐつて其重要さを増大して來た此點從來映畫等に見られたる「間諜X二七」の如き個人的小集團的なものと趣きを異にするものである。

第五列の活動が眼覺ましく表面化したのはさきのスペイン戦線であつた、それが今次の歐洲動亂をめぐつていよいよ激烈な活動力を集中するやうになつた、今次動亂の勃發當時に起つたベルリンの爆破陰謀事件は英國側の第五列の暗躍と目されてゐるし又一九三七年にフランスを震撼させた覆面黨事件はデモクラシー諸國家は之を獨伊側の第五列の仕業と認めてゐるが、何れも其陰謀組織の緊密性廣汎性は驚倒に價するものがあるとされてゐる、そして之等第五列は全國各所にアジトを設け、其地下室には兵器彈藥等を隠匿しラジオを備へつけてゐる、又其目的は政治組織の顛覆のみならず其多くの場合は戦争の豫備行爲乃至戦争其ものの一形態と見なさる

べきものだつたと言はれてゐる。

既にスパイ活動がかうした段階にまで達して居る以上今日の防諜活動もこれに對應すべき方策が建てられねばならないこと茲に言ふ迄もない。

甲、第五列の諜報活動。

乙、ノルウエーに於てドイツ軍に押收された英國第五列の秘密諜報の一例をドイツの白書に徴するに次の如きものである。

「トロムゼー二〇九二〇英國領事宛スカトラ並バルドフオス兩飛行場に關し次の諸點を調査されたし何れの方面より近づくとするも陸上機の着陸狀態及トロムゼー並ナルヴェイクよりの距離右極秘裡に調査のこと」

右に對する回答

「トロムゼーよりナルヴェイク四四一七三英國領事館宛スカトラはノルウエーの海軍飛行基地にしてトロムゼーの中心街より道路によつて通ずる北方約四マイルの地點、陸上機の着陸地點なく格納庫は未完成のままにて水上飛行機は繫留浮標に

よつてつながる格納庫には十六臺の水上飛行機を收容し得。

バルドフオスはノルウエーの陸軍飛行場にしてナルヴィグの北方四十五マイル、
トロムゼーの南方八十マイルそれぞれ道路によつて通ず着陸地點の關係は不明」
ナルヴィグ領事より更にロンドン海軍省へ送つた反電は次の如し。

「ロンドン二二二八〇海軍宛

オレ 港

(イ) 約一二〇〇呎

(ロ) 低潮點二六呎

(ハ) 高潮點三〇呎

貨物を卸すに不適當なるも軍隊は上陸し得る見込。

ハバア港

(イ) 四〇〇呎

(ロ) 沖の低潮點は二九呎なるも埠頭内は僅かに十八呎

(ハ) 高潮點八呎

(ニ) 無し

フアゲルネス港

(イ) 五五〇呎

(ロ) 低潮點二一呎

(ハ) 高潮點六呎

(ニ) 二〇トンのクレーン

更に要請された諜報事項はどんなものであつたかと言へば凡そ次の如きものであつて之はナルヴィク市並其附近の軍事機密に關することが大部分を占めてゐる一例である。

(一) 最近の都市港灣計畫に關する詳細

(二) 二年前の報告によれば近き將來に於て港灣の著るしい發展が企圖されつつある由これにつき詳細ありたし

(三)(四)(五)(六)(七)(八)(九)(十)(十一)(十二)

ナルヴィクの現人口

ラムスンドの海軍根據地の現在及將來の機能に關する詳細

ルオサヴァラーケルナヴァドラヤードに關する詳細

石炭供給に關する報告

石油供給に關する報告

如何なる信號法（電話電信）が用ひられてゐるか

ナルヴィク防備に關する事項

上陸襲撃等の點より見たる沿岸の兩調査

ナルヴィク、リクスグランゼン間の鐵道が容易に怠業し得ることは事實な

りや果して然らば最も怠業を起し易き箇所の詳細

輕艇、艇、曳船等の中どんな船が役に立つか

キルケネス陸地に機雷貯藏所があり其附近の船舶が機雷を敷設すべく待機

中との説の眞否

(右二)に依り英國の諜報活動は一九三八年から一九四〇年に亘り間斷なくしかも加速度的に強化されてゐることがわかる。

甲、ストラットフォース、プラン。

乙、リレハムメル附近獨英兩軍の衝突に於てドイツが押收した秘密文書たるフトラットフォース、プラン(上陸作戰計畫)は十八項目から成り此第二項に於て計畫實行迄絶對秘密が附記され從て上陸すべき地點も五一二、五四七、五四八地點といふやうに數字暗號が用ひられてゐるが右數字中五四七といふのは「スタヴァンゲル」であるが如し。

ストラットフォース、プランには又攻撃指令が附記せられてゐるのであつて次のものは第百四十七歩兵旅團に與へられた攻撃指令で日附は一九四〇年四月六日五四七地點(スタヴァンゲル)への作戰を指示したものである。

(一) 一般方法

「ストラット・フォース」の目的は五一二、五四七、五四八地點への上陸を敢行

してこれらの諸港を占領しドイツ勢力を排除するにある。

我國の上陸は住民によつて歓迎されるであらうが一切の上陸に關する決裁はR艦に委ねるものとす。

(二) 目的

五四七地點に關してはR艦の指導によつて上陸を敢行し次の地帯を防禦狀態とすることにある。

(イ) 港及び埠頭 (ロ) 「ソラ」飛行場 (ハ) 「ソラ」の北一哩半にある水上飛行場

(三) 敵軍の行動範圍

主力は先づ空軍行動にあるものと豫想され我軍の上陸中を攻撃するであらう。かかる事態發生の場合上陸行動はR艦によつて掩護されることにならう、而して肝要なことは敵軍が攻撃に出ると出ざるとに係らず我軍は時を移さず埠頭から集合地域へ移動することである。

又我軍が港に於て上陸を敢行しつつある間に敵軍が飛行場の占領を妨害するこ

ともあり得るが其場合には急遽飛行場を占領しなければならない。

(四) 集合地域

寺院の南方公園、病院、ガス工場。

右の外飛行場、水上飛行場、港の監視等に關しても周到な指示が與へられてゐる。

問、第六列とは如何なるものか。

答、第六列とは戦争に勝たうと云ふ熱心さが足りず其態度が結局戦争を妨害する形になるが如き類の總稱である。

例へば戦争の段階を悲觀的にばかり好んで話して敗北感を抱かせることや又は物の不自由への不平乃至不自由な品物を手に入れた事を丸で鬼の首でもとつたやうに吹聴する所謂「一言居士」とか其他買溜や闇取引等々に依り敵の乗ずる逆宣傳の溫床を作るが如き間隙行爲はすべて之を第六列行爲だと言はれてゐる。

蓋し斯様な虚に附込まれることは無意識に爲されることであつても結局スパイの

御手助をやつて居ることとなり、これとりもなほさず戦争に勝たうといふ熱心さが未だ足りないが爲戦争を妨害して居ることと同一結果となるからに外ならないからである。

外電の傳ふるところに依れば米國內の孤立派を繞る一派は「戦争になつて生活が苦しくなつたのは政府の責任だ」「なぜこんな生活をせなければならぬのか」といふ攻撃が諸方に連發し政府を攻撃してゐるとなるがルーズヴェルトは之等のものに對し「第六列」と稱し、更に國內政敵には「敗北主義者」と呼稱して居るといふことである。

米國內にはかうした第六列行爲が頻發し國論區々の状態なると言ふが之正しく敗戦への弔鐘ではあるまいか。

要するに是からの英米の狙ひの的が第六列行爲にあることは疑問の餘地がない、従つて斯る虚をつくらぬやう而して其虚に附込まれぬやう重々留意すべきである。

問、敵間諜の日本人觀。

答、某間諜は曰く。

答、某間諜は曰く。

「日本人は仲々誘惑にかからないが其生活に入つて行くと何もかもあけつばなしで話じてくれるので眞に都合がよい」

「日本の學生はまことに御し易い、銀座や新宿の喫茶店で大學生や専門學校の生徒に話しかけたらすぐ友達になつた、面白いことがある私の家へいらつしやい……と誘つて私の仲間の女性を近づけたらまるで夢中になつた、それから徐々に水に向けて機密の探查に當つた……」

又或るとき「誰々が某問題で檢舉された……某は銃殺されたい」とか「大勢の子供を抱へた母親が米の不足から闇をして發見され親子心中したが新聞に出ない」などとからかひ半分でデマを飛ばしたところ水の波紋のやうに日本人大衆は傳へてくれた、日本人は種々の迷信を持つてゐるのでこれにふれたデマはよく信じてくれるが其媒介は學生が最も良いと。大體外國人に言はせると第三國人を一番疑ひの目で見るのは露西亞人と日本人だと言ふてゐながら世界中で一番スパイし易い國

は日本だと言はれてゐることよりすれば日本人の何處かに間隙のあることを示唆するものではあるまいか。

甲、日本國民が防諜に對し比較的無關心だと評さるる理由。

乙、凡そ次の如きに因るものであらう。

(一) 四面海を環る日本は歐洲の如く國境を接して居ないことより近代的防諜の經驗に乏しいこと。

(二) 日本民族は天性純眞で何事も信じ易いこと。

(三) 古來必勝不敗の信念を貫徹し秘密戰を卑少觀してゐること。

以上のことは國際無電、國際交通の頻繁化せる今日の時勢よりすれば又弱點ともなつて居るのである、而かも此弱點は明治維持以來に於ける拜外思想の彌慢と共に一層拍車したのである。

斯様な理でスパイの害毒の恐しさが日本國民に未だ徹底してゐないのである、此點三省すべきである、さりながらスパイを恐れて世の中を暗いものにしてしま

は日本だと言はれてゐることよりすれば日本人の何處かに間隙のあることを示唆するものではあるまいか。

う事は逆効果であつて要するに國民たるの自覺を喚起すると共に防諜上の缺點を是正することに考慮を拂へばよいのであつて杞憂臆測は却て禁物である。

問、國際電疲線の實狀如何。

答、前歐洲大戰當時強豪ドイツ軍を最も悩ませたのはイギリス軍の戦車でもアメリカ軍の飛行機でもなく、實にイギリスのロイテル通信社の宣傳だつたと傳へられてゐる。當時世界の海底電線を殆んど獨占してゐたイギリスは其海軍力によつてドイツ側の海底線を切斷してドイツと諸外國との通信を遮斷した、そして自己に有利な情報のみを思ふがままに世界中にばら撒いた。

ルーデンドルフ元帥が嘆ずる迄もなくドイツが戦鬪に勝つて戦争に敗れた一つの原因は宣傳の完全敗北であつたことは今日の常識である、しかし今日では情勢が一變してゐる、前歐洲戦争と今次大戰の大きな相違は「ケーブルから無線へ」であり切斷し得ない聲の爆彈の存在が國際宣傳戰のコンデイションを或意味に於て公平ならしめたのである。

茲に各國が無線電信及びラジオに依る國際宣傳に死力をつくす理由があり宣傳技術の巧劣が直ちに勝敗に結びつく鍵ともなる所以があるのである。

試みに世界通信聯盟の一加盟店たる同盟通信者は現在英語佛語スペイン語華文の四ヶ國語を使用し晝夜兼行延時間五十四時間に約三萬語の尨大なる通信を全世界に向けて居ると言はれ驚くの外はないのである、かくてまさに國際ラジオ合戦は見へざる尖兵となつて火花を散らしてゐるのである、然らば各國の實狀はどんなものであらうか？

次に市河前イラン公使談の梗概を紹介する。

英 國

老獺といふ點では矢張りロンドン放送が一番だらう、ニュースも早いがそれよりもジエスチエアの國だけあつて表現のうまいことは驚くべきものだ。

今次の敗戦ニュースの如きも際どい處を要領よく逃げて結局巧みな言葉でゴマカシてしまふ、然しどうしてもゴマカシ切れないやうな場合にはかへつて逆手を使つ

て眞先に發表してしまふ、プリンス、オブ、ウエルスやレバルスが我海軍に撃沈されたときなど敗戦の事實を逸早く卒直に放送した、これは相手方の宣傳の機先を制すると共に他のニュースも此様に正確だと信じさせやうといふ英國一流の戰術なのである、ところが誰も見てゐない場合は徹底的に戰果を誇大し例へばコロンボ攻撃のときには「日本機が七十五機來襲したが其中五十七機を撃墜せり、わが方被害輕微」などといふとんでもない大與太を飛ばしたりする。

ニュース以外の放送でもあの手この手を自由に驅使し甚だ變化に富んでゐる。

前大戰時英國は秘密裡に情報局を設け著名の學者や藝術家を動員して「ドイツは戰死者の死體を絞つて油を採つてゐる」と呪ふべきデマを世界中にまき散らしたがシンガポール失陷後の對日惡宣傳も之に劣らない、日本は捕虜に食事も碌々與へないとか日本は非人道だとか日本の敵前上陸にはいつもドイツ兵が參加して居るとか、日本の飛行士にはドイツの飛行士が混入してゐるとか比島の敵前上陸では米兵に變装して來たのでわれ／＼はだまされたのだ等々かうなると心根のいやしさが露出し

却つて逆効果をあげてしまう、ビルマを失ひインドが危くなつてきた時分、どういふ對印宣傳の手を打つかと興味を以て見てゐると果然滿洲國の土地生活衛生等についてあらん限りのデマを吐き出した。日本と仲よくすると、こうなるぞといふ謀略宣傳である、而かしロンドン放送で日本が占領地帯の住民を骨抜きにするため阿片吸飲を獎勵してゐるとやつたのは天に向つて唾を吐く大失敗だらう、いづくんぞ知らん百年前天人共に許さない阿片戰爭を起し今日の事態を招いたのは他でもない英國自身だからだ。

米 國

アメリカも放送には力を入れ「ニエースオブニエース」とか「アメリカ千一夜」など趣向をこらしてゐるが列國に比し宣傳放送に乗りだすのが遅かつただけに其のハンデキャップをとり返せない状態である。

特にニエースに關しては大東亞戰爭以來の敗戦つづきで真相をぶちまけられない悩みが深く勢ひニエースが精彩を失ふか、さもないければ大與太ニエースになつてし

まふのである。

例へば本年六月五日ミッドウエー海戦でアメリカ太平洋艦隊司令長官ニッツは、「日本の戦艦航空母艦各一隻に損害を與へた」と放送したが翌日には之を二倍にし更に翌日には「日本の航母二隻を撃沈二隻を大破戦艦二隻を撃沈した」と大與太を飛ばしたのである。

ドイツ

ドイツは英國の悲鳴を巧みに取上げて有名なホーホー卿が全世界に放送してゐる、ホ卿の放送は言葉が巧いのと機智に飛んでゐるので英國の中にさへファンがゐるほどだ。

ニューヨークが敵機來襲の影に怯へて初燈火管制をやつたときベルリンの放送が「いよく／＼ニューヨークもワシントンも眞暗になつた、眞偽の程は分らないが白堊

館の灯も消へ黒聖館と改稱する由」とエーモアを飛ばした。

獨佛開戦直後マジンラインを守つてゐる佛軍の司令官が晝食事食堂には入りワル

ッでも聴き乍ら飯を食べやうと思ひ何氣なくラジオのスイッチを入れると出て來たのは音樂ではなくて何々「唯今〇〇司令官がマジノラインの食堂に入つて行きました、椅子に腰を下ろしました、唯今メニューを見てゐます……」といふ奇怪な放送流暢なフランス語で今現に〇〇司令官の周圍に起つてゐることが、そつくりそのまま献立まで間違はずに話されてゐるのだ、司令官は慄然として立上つた、そして青ざめた顔で食事にはフォークもふれずに出て行つた、これは米誌に載つてゐた實話である。スパイの諜報による獨軍の神經戰術であることは言ふまでもない。

日 本

わが大本營發表の信用は何處でも大へんなものだ、恐らく信用を得て居る點では世界一であらう、イランではラジオを持つてゐるほどの者はわが海外放送や獨伊の對イラン放送による大本營發表を聴き逃さないし米國あたりでも短波受信機で日本の放送を聴いてゐる者の數は莫大な數にのぼるそうだ、飾らず誇らず僞らず武士道そのままの東京放送の前に醜女の厚化粧のやうな米英の謀略宣傳の白粉が日々剝げ

て行くのも寧ろ當然と言はねばならぬ。

註

日本の如き島國に對する宣傳には特に電波が利用される關係上現在では敵國の放送を聴取するラジオの設置は動もすれば敵に乗ぜられる虞があるので無線電信法に依り大巾の制限を受けて居るのである。

問、近代秘密戰進國は何處か。

答、スパイの本場は何といつてもヨーロッパであり別けて

イギリス

はスパイ制度

の先進國でありその組織及活動が最も狡猾に洗鍊されてゐる。

諜報機關は外務省、軍隊郵便局、稅務署、警察署等と關係を保ち就中外務省の情報部に重點を置き之は其エージェントを世界各地に置いて居ると言はれてゐる。

英國の間諜機關の中で特に興味あるのは防諜機關である、之については陸軍省情報部五課(MI5)が有名で之と緊密に結びついて居るのはロンドン警視廳の特別部で之は逮捕身柄監視等の實力機關となつて居る、勿論空、海軍、外務省とも關連

を保つてゐる、そして情報機關の活動方法は著しく専門化し化學者、語學者、技術家等が情報機關の官吏中の最大數を占めて居るといふ。

今日各國共新しい暗號がつくれ且之をかく爲に新しい藥品も發明されてゐるが之を最短時間内に解くことが英國情報機關暗號部の任務となつてゐる、此暗號部の任務となつてゐる、此暗號部の中にある有名な「第四十室」は前歐洲戰時海軍々令部の設けた所で大戰最後の年には五十人の部員によつて毎日二千通の通信が解讀されたといふことである。例のチンメルマン電報の解讀に成功したのも此部であつたとなる、此暗號部は所在地を嚴秘にして轉々と變つてゐる、近時各國共暗號解讀方法が著しく進歩し今や解讀されない暗號は殆んど存在せざるに至つた、稀な暗號の爲には「頻出度表」といふものが使はれてゐるそうだが之はアメリカが發明したもので此表で大抵の通信が解讀されるといふ、又數字暗號の爲に一種の計算器がつくられてゐる、英國人は自國の暗號部の手にかかつては如何なる複雑な暗號も一週間以内には必ず解けると誇つてゐる、ラジオ、新聞廣告、レコードの方法等に

依る通信も容易に解讀されるのである、殊に最も得手とする敵を欺くための種々の術策が高度に發達してゐる、「ブランディング」といふ方法の如きもそれである、之は例へば故意に虚報を盗ませる類である、又諜報に關する年度豫算が馬鹿に多額で一説には百萬ポンド以上と言はれそして此使途は一人乃至二人しか知るものはないと言はれてゐる。

ロシア

は世界で一番スパイに力を入れて居る國だと謂はれてゐるが力を入れてゐる半面に一番スパイに信用を置いて居ないのも又ロシアである、其實はロシアの外交官は外國へ出て行くと逆に自分の國をスパイして相手國へ情報賣るものが非常に多いとかなる。

日本に來たロシアの最初の大使コツプはスターリンに反抗して逃げ出した、此種の例は各國に類例が多いと言はれてゐる。

ペルリンのロシア大使館員等が歸國命令を肯んぜず居据つたこともある。斯様にロシアのスパイは指導者から信用を置かれてゐない現状にある。

ロシアがスパイに力を入れて居るといふ基本理由は、スパイ養成所を設置してある等よりそう見られてゐるのだとも言はれてゐる。

數年前朝鮮で捕へられた三名のスパイはモスコウから來た録々たるものであつたが彼等は日本の軍事學を始めとし無線のこと其他戦争となつた場合の火藥庫鐵橋等の破壊爆破方法の副任務をも擔當させられて居ることを自白した。

米 國

はワシントン會議のときは例の暗號電報盜讀で素晴らしいものであつたが平常は案外防諜が御留守になつて居ると見へ大事な機密がひよい／＼外國に漏れる。之は輿論の國であることもさることながら而かし一面の理由は外國スパイ十人に對し檢舉員一人平均といふ殆んど明放しに等しい防諜機關の粗略な缺陷だとも評されてゐる、其處へ行くと英國はなかなか狡猾で海軍省の機密室には軍艦ニルエツトといふ軍艦の凡ゆるものが影繪とし壁に貼つてあると報ぜられてゐる、當局者は日本の軍艦を一目見て艦籍艦名を言ひ當る程に教育されてゐる、過去の事例に徴して明かなる如く此國のスパイが日本等に來たときには魚釣やピクニツクに見せかけている

んな資料を蒐め或はバンドのびぜう金で寫眞をとつたり描いた地圖の上へ油繪を塗り潰してすました顔でゐたのであらう。

斯様な理で近代秘密先進國の雄は特に其狡猾な點に於て英國であらう。

問、防諜法規にはどんなものがあるか。

答、防諜關係法規より主たるものを摘出せば

(一) 軍機保護法 (第三條乃至第七條)

國法保安法 (第三條乃至第七條)

(二) 軍用資源秘密保護法 (第十二條乃至第十五條)

(三) 國家總動員法 (第四十四條乃至第四十五條)

である、而して之等法律に規定されてある「機密」乃至「秘密」は大體にして次の如く區分することが出来る。

- (イ) 國家機密 (外交、財政、經濟其他重要國務に關するもの)
(ロ) 軍事上の機密

(ハ) 軍用資源の秘密

(ニ) 國家總動員に依る秘密

甲、機密又は秘密を如何にした場合が違反となるか。

乙、凡そ次の如き行爲のあつた場合が違反となる。

(イ) 敵國のみならず一般外國並外國人若くは他人に漏し又は公にしたるとき。

(ロ) 探知収集其他窃用したるとき。

(ハ) 探知収集又は漏泄の目的を以て團體等を結成し又は之等團體に知情加入した場合等は違反となり罰せられるのである。

尙茲で注意すべきは防諜と法律との關係であるが「防諜に關する法律さへ守ればそれでよい」といふ様な考へ方は不眞面であつていけないのである。

一例を舉ぐれば軍機保護法施行規則に特殊地域にありては地上二十米以上の撮影は無許可にては罷りならぬとあるが此「二十米」にこだわつて二十米以下であれば差支へないかの如く考ふことは防諜常識の缺けたるものであると云ふべく

其可否は自律的に決すべきものである。

「防諜は取締より各自の自覺」と言はれて居ることが又其處にある理である。

言論篇

戦時下如何なる言論が是とされ又非とされるかは一概に斷じ得ざるも凡そ建設的な言論は歓迎され然らざる言論は非とされるのである。

然らば法律上の限界如何と云ふに各場合、目的、行爲等、各法規の定むるところに依り異なるのである。

問、言論法規には如何なる種類のものがあるか。

答、言論關係法規より主たるものを摘出せば凡そ次のものである。

- (一) 改正刑法
- (二) 國法保安法
- (三) 言論出版集會結社等臨時取締法
- (四) 取引所法

(五) 陸軍刑法並海軍刑法

(六) 警察犯處罰令

右の外治安警察法、治安維持法、刑法、衆議院議員選舉法、爆發物取締規則等の如く附隨的な法規もある。

右の法規中(一)(二)(三)は昭和十六年末新規制定乃至追補公布を見たもので之に依つて言論統制の體勢は愈々擴充されたのである。

特に新法規が嚴罰主義を採用したことは注目すべきである。

甲、言論法規の擴充強化されたる理由。

乙、從來の法規では例へば刑法にありては名譽信用等の保護、取引所法にありては相場の擁護に關するに止まる等、所謂個人主義的色採に富んで居り、又陸海軍刑法にありては専ら軍事のみに關する造言飛語の禁止といふ風に偏して居り、一般社會的人心、經濟、諜報、宣傳、謀略等の視野に及んで居なかつたし治安警察法にありても特殊事項に局限されて居るし其他警察犯處罰令に至りては輕き違警罪

に過ぎざる等時代に副はざるものがあつたのである、従て之等不備を是正すると共に無責任なる批判言動を禁絶、他面國民に對し近代戰的特質を理解せしめんとするの要求面とに因り言論法規の擴充強化を茲に見た理である。

問、如何なる内容の言論が制限を受くるか、

答、概ね次の通りである。

- (イ) 人心惑亂の事項
- (ロ) 人を誑惑するの事項
- (ハ) 治安妨害事項
- (ニ) 經濟上の混亂を誘發すべき事項
- (ホ) 國民經濟の運行を阻害する事項

註

(イ)の「人心惑亂」は新法規の所産で所謂大衆性をもつたものであるが之に反し(ロ)の「誑惑」は大衆性を有せざるものである。従て前者は民心に衝動を與へ社會不安を醸成する様な場合に

相當し後者は個人とか小數の人を惑はして半信半疑の狀態に導く様な場合であればよいのである、此點に於て兩者は相違してゐる。

唯兩者共「惑亂」とか「誑惑」とかいふ結果が必ずしも發生しなくてもよいといふ點に於ては共通してゐるのである。

(ハ)の「治安妨害」とは例へば社會機構を急劇に變動さすとか不穩行動の誘發煽動とか言ふやうなもので言ひ換ゆれば安寧を紊亂さすとか、政體を變革する等の如き場合である。

治安妨害も(イ)(ロ)の問題と同じく必ずしも實害が伴ふことを必要としないのである。

(ニ)の「經濟上の混亂」とは一般的に生産、配給、金融、貿易等の諸經濟機能の運行が阻害されて混亂狀態に陥ることを意味し、

(ホ)の「國民經濟の運行阻害」とは金融界の攪亂、主要物資の生産、配給等の阻害行爲を意味するのである、然らば兩者はどこが違ふかと云へば其判定は困難であつて従て兩者は其法文に定められた、場合、日時、行爲等を參照して區別するより外に仕方がないだらう。

問、如何なる行爲がいけないのか。

答、概ね次の如き行爲である。

■ (ハ)(ロ)(イ)

造言飛語すること

流言、浮説、虚報を爲すこと

虚偽の事實虚偽の風説等の流布

(イ)の「造言飛語」とは眞實ならざる有害なる事實を報導することである。

(ロ)の「流言浮説虚報」とは根拠なき風説とか嘘を報導することである。

而して此の嘘の報導は(イ)の造言飛語の「飛語」と同一の觀念であるとされてゐる。

(ハ)の「虚偽の事實」とは嘘の事實で又「虚偽の風説」とは根拠ない言説である。而して之等を多數人に對し傳播することである。

茲で注意すべきは前記(ハ)は不特定多數人を對象としてゐるが(イ)(ロ)は不特定多數人の場合だけに限らず特定の一人乃至二、三人のものに告げた場合でもいけないことになるのである。

從て(イ)(ロ)は「之ハ内所言ダ」とか「ここだけの話だ」とかの例の如く特定の一人か二人かに話した場合でも含むのである。

尙前記三者はどこが相違するかと言ふと之又其法文に定められたる、場合、目的、行爲等を

参酌して區別するのみである。

問、目的の有無に依り犯罪の成否に關係ある場合があるか。

答、言論法規中には犯罪となるが爲には一定の目的を必要とする場合と一定の目的なくとも違反に問はるる場合とがある。

今言論法視中から目的を必要としてゐるものを拾ひ出せば次の如きものである、従て次の如きもの以外の場合には目的なくても他の條件が具はるに於ては其儘違反となるのである。

(イ) 人心を惑亂することを目的としたとき

(改正刑法第百五條ノ二)

(ロ) 銀行預金の取付其他經濟上の混亂を誘發することを目的としたとき。

(改正刑法第百五條ノ二)

(ハ) 暴利を得ることを目的としたとき。

(後段改正刑法第百五條ノ四)

(ニ) 外國と通謀し又は外國に利益を與ふる目的あるとき。

(國防保安法第九條—第十條)

(ホ) 敵國を利する爲なるとき。

(陸軍刑法第二十八條海軍刑法第二十三條)

(ヘ) 取引所に於ける相場の變動を圖る目的あるとき。

(取引所法第三十二條ノ四)

問、戰時、平時に依つて犯罪の成否に關係ある場合があるか。

答、言論法規中「戰時」なることを犯罪の成立要件として規定してゐる場合は次の二場合だけである。

(イ) 戰時天災其他の事變に際して……

(改正刑法第百五條ノ三第百五條ノ四)

(ロ) 本法は戰時に際して……

(言論出版集會結社等臨時取締法第一條)

註

(イ)の「戦時」は全ての戦争期間を指さすに反し(ロ)の「戦時」は本法の特異性に鑑み「大東亞戦争」のみの期間を指さして居るのだとされてゐる。

問、言論法規に違反すれば如何なる刑罰が科せられるか。

答、次表の如く各法規に依つて刑罰を異にする。

法 令 名	刑 罰
改正刑法第百五條ノ二前段	……五年以下の懲役禁錮五千圓以下の罰金
同 條 後段	……七年以下の懲役禁錮五千圓以下の罰金
改正刑法第五條ノ三	……三年以下の懲役禁錮三千圓以下の罰金
改正刑法第五條ノ四	……無期又は一年以上の懲役十萬圓以下の罰金併科
國法保安法第九條	……無期又は一年以上の懲役
同 第 十 條	……無期又は一年以上の懲役十萬圓以下の罰金併科
陸軍刑法第二十八條	……死刑—三年以下の禁錮
同 第九十九條	……死刑—三年以下の禁錮
海軍刑法第二十三條	……死刑—三年以下の禁錮

言論出版集會結社等
臨時取締法第十七條
同 第十八條

取引所法第三十二條ノ四
警察犯處罰令第二條十六號

……一年以下の懲役、禁錮又は二千圓以下の罰金

……一年以下の懲役、禁錮又は千圓以下の罰金

……一年以下の懲役又は五千圓以下の罰金

……三十日未滿の拘留又は二十圓未滿の科料

本罰則中改正刑法、國法保安法、言論出版集會結社等臨時取締法は前述の如く大東亞戰後制定公布せられたる所謂新法なるが特に刑罰が重くされて居ること、並國法保安法には本罪の未遂、豫備、陰謀迄罰するとされてゐることは注目すべきである。

参 考

改正刑法第百五條ノ二 人心ヲ惑亂スルコトヲ目的トシテ虚偽ノ事實ヲ流布シタル者ハ五年以下ノ

懲役若クハ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

銀行預金ノ取付其他經濟上ノ混亂ヲ誘發スルコトヲ目的トシテ虚偽ノ事實ヲ流布シタル者ハ七年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

改正刑法第百五條ノ三 戰時天災其他ノ事變ニ際シ人心ノ惑亂又ハ經濟ノ混亂ヲ誘發スヘキ虚偽ノ

事實ヲ流布シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

改正刑法第一百五條ノ四 戰時天災其他ノ事變ニ際シ暴利ヲ得ルコトヲ目的トシテ金融界ノ攪亂、重

要物資ノ生産又ハ配給ノ阻害其他ノ方法ニ依リ國民經濟ノ運行ヲ著シク阻害スル虞ガアル行爲ヲ爲シタルモノハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ罰ヲ犯シタル者ハ情狀ニ因リ十萬圓以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得、

(後略)

國法保安法第九條 外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ治安ヲ害スヘキ事項ヲ流

布シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

同法 第十條 外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ金融界ノ攪亂、重要物資

ノ生産又ハ配給ノ阻害其ノ他ノ方法ニ依リ國民經濟ノ運行ヲ著シク阻害スル虞アル行爲ヲ爲シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタルモノハ情狀ニ因リ十萬圓以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

陸軍刑法第二十八條 敵國ヲ利スル爲左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタルモノハ死刑ニ處ス

同法

第九十九條

- 一、要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、其他軍用ニ供スル場所、建造物其他ノ物ヲ損壞シ又ハ使用スルコトヲ能ハサルニ至ラシムルコト
 - 二、水陸ノ通路橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ軍隊、艦船ノ往來ノ妨害ヲ生セシムルコト
 - 三、司令官軍隊ヲ率ヒテ守地若クハ配置ノ地ニ就カス又ハ其ノ地ヲ離ルルコト
 - 四、隊兵ヲ解散シ又ハ其ノ潰走混亂ヲ誘起シ又ハ其ノ連絡集合ヲ妨害スルコト
 - 五、兵器、彈藥、糧食、被服其他軍用ニ供スル物ヲ缺乏セシムルコト
 - 六、命令通報、若クハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ虚偽ノ命令通報若クハ報告ヲ爲スコト
 - 七、造言飛語シ又ハ敵前ニ於テ叫呼喧噪スルコト
- 戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

海軍刑法第二十三條

敵國ヲ利スル爲左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタルモノハ死刑ニ處ス

一、艦船、兵器、彈藥、其他軍用ニ供スル場所建造物其他ノ物ヲ損壞シ又

ハ使用スルコトヲ能ハサルニ至ラシムルコト

二、水陸ノ通路橋梁燈臺浮標ヲ損壞又ハ塞塞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船、軍隊ノ往來ノ妨害ヲ生セシムルコト

三、指揮官其ノ艦船、軍隊ヲ率キテ守所、若ハ配置ノ場所ニ就カス、又ハ其ノ場所ヲ離ルルコト

四、艦隊、隊兵ヲ解散シ又ハ其ノ潰走混亂ヲ誘起シ又ハ艦船、隊兵ノ連絡集合ヲ妨害スルコト

五、兵器、彈藥、糧食、被服其他軍用ニ供スル物ヲ缺乏セシムルコト

六、命令通報、若クハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ虚偽ノ命令通報若クハ報告ヲ爲スコト

七、造言飛語シ又ハ敵前ニ於テ叫呼喧噪スルコト

言論出版集會結社等
臨時取締法第一條

本法ハ戰時ニ際シ言論、出版、集會、結社等ノ取締ヲ適正ナラシメ以テ安寧秩序ヲ保持スルコトヲ目的トス

同 法

第十七條

時局ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二千元

同 法 第十八條

以下ノ罰金ニ處ス
時局ニ關シ人心ヲ惑亂スヘキ事項ヲ流布シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ
禁錮又ハ千圓以下ノ罰ニ處ス

取引所法第三十二條
ノ四

取引所ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル目的ヲ以テ虚偽ノ風説ヲ流布シ、偽計ヲ
用ヒ又ハ暴行若クハ脅迫ヲ爲シタルモノハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下
ノ罰金ニ處ス

警察犯處罰令第二條
十六號

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處
ス

十六、人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虚報ヲ爲シタル者

昭和十八年三月十日印刷
昭和十八年三月二十日發行

(四千部)

●價一圓二十錢

著者 松元末吉

印刷所 大阪市浪速區稻荷町二ノ九三五
井村雅宥

發行者 大阪市南區橫堀七ノ一九
前田勘次

(出文協承認)
了430713號



發行所

文進堂

大阪市南區橫堀七ノ一九

振替大阪一二四七二番
電話船場一九九九番
會員番號一二八〇六六番